

4. 答 申 書

津浪襲來地域に關しては別項の如く所員の實地踏査による報告あるも、更にこれを完璧なしらめる目的を以て、當研究所は北海道、青森縣、岩手縣、宮城縣、福島縣の太平洋沿岸各地の主として小學校に對して次表の如き5項の調査報告を依頼した。これに對して約108校より貴重なる答申を寄せられた。この項はこの答申書を其の儘發表したものであつて全く手を加へて居ない。但し第5項に關しては大部分上記調査報告の部に挿入してある爲除外したるを以て同報告を参照されたい。尙答申を寄せられた各校に對しては厚く謝意を表す。

1. 津浪は凡そ何分置きに、何回位襲來したか。各回の津浪の高さ、來た時刻を部落別に書き入れて下さい。

2. 津浪の押寄せて來る模様はどんなでしたか。潮の満ちて來る様にデワデワと來ましたか。ドツト水鉄砲の様に打付けて來ましたか。浪は崩れて來ましたか。逆巻いて來ましたか。それとも下からモクモクと盛上る様に來ましたか。各部落とも皆同じ模様で來ましたか。津浪は各回共同じ様な來方でしたか。左の餘白に詳しく書きこんで下さい。

3. 町村内各部落で流失した船、家屋、家財等は何村何部落へ漂着しましたか。左の表に一番多く漂着した所から順に書き込んで下さい。若し同部落内に漂着したのなら流れた方向を第5項の圖に矢で書き示して下さい。

4. (イ) 音
- a. 津浪の前に何か音が聞えたか。
 - b. 津浪より何分位前に音が聞えたか。
 - c. どんな音がしたか。
 - d. どの方向に聞えたか。
 - e. 音の強さは。

- (ロ) 光
- a. 津浪の時光り物が見えたか。
 - b. どんな風に見えたか。
 - c. 光の色は。
 - d. 光のも模様は。
 - e. どの方向に見えたか。
 - f. 見た場所と時刻は。

(ハ) 井泉 津浪の数日前から数日後までの間に井戸水や涌泉が涸れたり濁つたりした所はありませんか。あつたらその井戸の位置と變化の模様を書いて下さい。

(ニ) 前兆 津浪の前兆と思はれる様な事があつたか。

(ホ) 其他御氣付の點何でも御知らせ下さい。

5. 左の餘白に村内の略圖を大きく書いて、浸水區域、家屋の流失倒壊した區域、家屋の流れたり倒れたりした方向、變化のあつた井戸の位置を朱で書き入れて下さい。

目 次

北海道之部

釧路國之部

釧路郡

釧路村	頁 149
-----	----------

鳥通尋常高等小學校 跡永尋常小學校

日高國之部

幌泉郡

幌泉村	150
-----	-----

庶野尋常高等小學校

浦河郡

荻伏村	150
-----	-----

荻伏尋常小學校

三石郡

三石村	151
-----	-----

三石尋常高等小學校

新冠郡

新冠村	151
-----	-----

新冠尋常小學校

沙流郡

門別村	151
-----	-----

佐瑠太尋常小學校 慶能舞尋常小學校 賀張尋常小學校

膽振國之部

勇拂郡

苦小牧町	152
------	-----

西尋常小學校 錦多峰尋常小學校 樽前教授場

白老郡

白老村	152
-----	-----

白老第一尋常高等小學校

幌 別 郡

鶯 別 町……………頁 152

鶯別尋常小學校

有 珠 郡

伊 達 町…………… 152

長流尋常高等小學校 有珠尋常高等小學校

山 越 郡

八 雲 町…………… 153

八雲尋常小學校 野田生尋常小學校 山越内尋常小學校 黒岩尋常
小學校 山崎尋常小學校

渡島國之部

茅 部 郡

落 部 村…………… 154

落部尋常小學校

砂 原 村…………… 154

砂原尋常高等小學校

鹿 部 村…………… 154

鹿部尋常小學校

青森縣之部

下 北 郡

東 通 村…………… 155

尻屋尋常小學校 猿ヶ森尋常小學校 田代尋常小學校 小田野澤尋
常高等小學校

六ヶ所村…………… 155

泊尋常小學校 出戸尋常小學校 應架尋常小學校

三 澤 村…………… 157

谷地頭尋常小學校 淋代尋常小學校

	頁
百石町	158
二川目尋常小學校 一川目尋常小學校 百石尋常高等小學校	
三戸郡	
下長苗代村	163
下長苗代尋常小學校	
八戸市	163
鮫尋常小學校 白濱尋常小學校	

岩手縣之部

九戸郡

種市村	165
平内尋常小學校 種市尋常高等小學校 城内尋常小學校	
中野村	167
中野尋常高等小學校	
夏井村	168
平山尋常小學校 夏井尋常高等小學校	

下閉伊郡

普代村	169
普代尋常小學校	
小本村	170
中島尋常小學校	
田老村	171
田老尋常高等小學校 田老尋常高等小學校小田代分教場	
崎山村	173
崎山尋常高等小學校	
宮古町	174
宮古尋常高等小學校	
津輕石村	175
赤前尋常小學校	
大澤村	176

大澤尋常小學校	頁
織笠村……………	176
織笠村白石分教場	
船越村……………	176
船越尋常高等小學校	
上閉伊郡	
大槌町……………	177
大槌尋常高等小學校一ノ渡分教場	
鶴住居村……………	178
箱崎尋常高等小學校 白濱分教場	
釜石町……………	181
釜石鑛山尋常小學校 平田尋常小學校	
氣仙郡	
唐丹村……………	183
小白濱尋常高等小學校	
越喜來村……………	184
崎濱尋常小學校 越喜來尋常高等小學校	
綾里村……………	186
砂子濱尋常小學校 綾里尋常高等小學校	
大船渡町……………	188
大船渡尋常高等小學校	
小友村……………	189
小友尋常高等小學校	
米崎村……………	190
米崎尋常高等小學校	
高田町……………	191
高田尋常小學校	

宮城縣之部

本吉郡

	頁
大島村	192
大島尋常小學校	
鹿折村	193
鹿折尋常小學校 浦島分教場	
氣仙沼町	194
氣仙沼中學校 九條尋常小學校 九條分教場	
階上村	197
階上尋常小學校	
御嶽村	198
馬籠尋常小學校	
歌津村	199
伊里前尋常小學校 港分教場	
志津川町	200
志津川尋常小學校 荒砥分教場	
桃生郡	
十五濱村	201
船越尋常小學校 船越尋常小學校大須分教場 羽板尋常小學校	
赤井村	202
赤井尋常小學校 南赤井分教場	
應來村	202
應來尋常小學校	
牡鹿郡	
女川町	203
尾浦尋常高等小學校 御前分教場 江島尋常小學校	
石巻市	204
湊尋常小學校 門脇尋常小學校 釜分教場 住吉尋常小學校	
渡波町	204
渡波尋常小學校	
荻濱村	205
竹濱尋常小學校 小竹尋常小學校	

	頁
大 原 村	206
大原尋常小學校	
宮 城 郡	
七ヶ濱村	207
亦樂尋常高等小學校 松ヶ濱尋常小學校	
高 砂 村	208
高砂尋常小學校	
仙 臺 市	209
南小泉尋常小學校	
名 取 郡	
六 郷 村	209
六郷尋常高等小學校	
亍 理 郡	
吉 田 村	210
長瀧尋常小學校 吉田尋常高等小學校	
山 下 村	211
第二尋常小學校	
坂 元 村	212
坂元尋常小學校 坂元尋常小學校真庭分教場	
 福 島 縣 之 部	
相 馬 郡	
福 田 村	213
福田尋常高等小學校	
飯 豊 村	214
飯豊尋常高等小學校	
眞 野 村	214
眞野尋常高等小學校	
福 浦 村	214
福浦尋常高等小學校	

石城郡

	頁
草野村.....	214
草野尋常小學校 絹谷分教場	
豊間村.....	214
豊間尋常小學校	
小名濱町.....	214
小名濱尋常高等小學校	

北海道之部

釧路國之部

釧路郡 釧路村 鳥通尋常高等小學校

部 落 名	第 1 回目 の 津 浪		第 2 回目 の 津 浪		第 3 回目 の 津 浪		津 浪 の 總 回 數	
	襲 來 時 刻	浪 の 高 さ	襲 來 時 刻	浪 の 高 さ	襲 來 時 刻	浪 の 高 さ	大	小
天 寧	時 分 3 42	尺 3	時 分 4 20	尺 2	時 分 5 35	尺 1.5	回 1	回 4

2. 午前 2 時 30 分頃の地震と共に海上の氣配が一變し同 3 時 40 分頃となるや平穩だつた海面は俄に荒れ見る見る海水は河口目掛けて逆流し鐵橋下流方面の流送材と思はしきもの約 300 石、發動機船、天馬船等 20 隻を引攪つたまま橋をくぐつて上流に押し流し一擧 3 尺餘の増水を見たが忽ち凄愴なる勢ひを以て減水しこれを 8 時前後までに數回繰返し遂に釧路市港灣附近の河口にありし船舶、流送材は斷氷と共に狭い河口を氾濫しつゝ無慘に港内に吐き出されたと言ふ狀況。我釧路村は釧路川とは言ひ上流なりしを以て河口（釧路市）附近のそれに比較して被害甚少なるも材木（筏に組みし）は氷を破りて河口に流失せるものあり。

3. 天寧 釧路市河口（釧路川）

4. (イ) 音 a. 海鳴が釧路港沖合に於て起つてゐた。
 b. 40 分位前。
 c. 海の暴風雨の徴候の如きゴーゴータる音がす。
 d. 釧路港西南の沖合方向。
 e. 港灣より市内に海水の逆上せしが如き程度の音。

(ロ) 光 見えず。

(ハ) 井泉 見受けず。

(ニ) 前兆 見受けず。

(ホ) 其の他

跡永賀尋常小學校

春暖の候御清榮之段奉賀候陳者今回 5 月 8 日付を以て御照會の趣校長及次席 5 月 10 日過當校へ拜命に付右の調査詳細に記入致しかね候故御承知相願ひ度此段及用紙

御返送申上候。

日高國之部

幌泉郡 幌泉村 庶野尋常高等小學校

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
幌泉郡 幌泉村 大字 庶野村	時 分 3 10	尺 25	時 分 3 35	尺 48	時 分 4 0	尺 38	回 3	回 無數

1.
 - a. 約2丁位（平常の大干の3倍位）干潮し地鳴りを生じて押し寄せて來た。
 - b. 見て居る内に満ちて來た。
 - c. 遙か沖より一帯に水嵩を増して浪の上部は崩れて白波を見せ岸を指して一直線に押し寄せ其の凄さは到底言ひ表し得ぬ。
 - d. 上部だけ崩れて白波を見せて居た。
 - e. 能くは判らぬが100貫以上もある昆布の生えた石を岸へ打ち上げた所から考へ逆巻いて押し寄せた様に思はれる。
 - f. 南東から押し寄せたものと思はれる。それは部落の南東に面した沿岸は被害が殊に甚大であつた。
 - g. 浪は何れも南東より押し寄せた様であるが沿岸に來て岩礁と衝突して南西に方向を變へたものもあつた。
2. 襟裳沖若くは南部沖に流失しつゝあることは漁船の人に伺つた、何處に漂着したか判然しない。
3. (イ) 音
 - a. 海鳴りがありました。
 - b. 30分位前に。
 - c. 荷馬車が板橋を通る時の様な音。
 - d. 襟裳沖に。
 - e. 遠雷の様に。
- (ロ) 光 見ず。
- (ハ) 井泉 不明。
- (ニ) 前兆 地震が地鳴して而も3分以上揺れた。
- (ホ) 其他 地震の揺は鈍かつた。

浦河郡 萩伏村 萩伏尋常小學校

當村は最初の=ニュースに^{オコシ}小越と^{オギフシ}荻伏と誤られて報ぜられ相當被害あるらしく世間に傳はりしも殆ど無被害の状態にて御照會の各項に該當すべき事項極めて少く左に沿岸部落につき調査せし事項回答致します。相當時日を經過したると當時津浪なることを自覺せざりしたため正確なる數字を得ず概略的のものです。

第1回	朝 5 時 30 分	約 5 尺	果して第1回なりや第2又は3回なりや不明なるも第1回と思はる。
第2回	6 時 20 分	„	
第3回	7 時	約 8 尺	
第4回	7 時 20 分	約 5 尺	

沖の方は 4 時 30 分頃より發動機船の音と同じ音を聞けども皆毎日聞く發動機船の音と思ひ居たりしに前記の津浪襲來せり。引浪は約 1 丈位と認めたり。浪は逆卷來たれりと。其他各項御記載の事項は沿岸に於ても認めざりし模様なり。

三石郡 三石村 三石尋常高等小學校

當地方該當事項無之候此段及御回答候也。

新冠郡 新冠村 新冠尋常小學校

本校通學區域は海岸を去る 2 里の地域にあり先般の津浪は何等の影響無く従つて何等の徴候をも認め得ませんでした。

沙流郡 門別村 佐瑠太尋常小學校

當夜(3月3日拂曉)可成りの激震を感じましたが後の津浪は幸にも當地方に累を及ぼしませんでした。

内地方面に比して僅少では有りますが日高として最も災害の甚しかつたのは私達の部落から凡そ 20 里以上も南東に當る^{シヤマニ}様似幌泉方面でした。

當地方としても余波が全然なかつた譯でも有ませんが一體に當地方の海岸は全く地圖の示す如し出入のないノツペラ棒な海岸線を持つ爲單なる高浪で終つたのが多い様です。

海岸に住む者の話では終日普段より 3 尺程高い浪が氣味悪く岸をかんだとの話です。

最も地震直後(その當人も地震後の時間判然せず凡そ 1 時間程との事です)に來た大浪には水邊近くの森の家屋に浸水し當家族は夢中になつて避難し來りたる事あり。のち歸つて見た所が折柄の寒さに疊も何も凍結して爾後 2 週日程市街の親類に居りし模様でした。

地震は今回ののが初めてなく小生當地赴任以來4ケ年間逐年數を増加しつゝある様子です。

海岸の段丘性と云ひ、附近に活火山樽前タルマエを持つ事と云ひ北海地方の地震は概ね當地方の海底に震源を有するとの事普段は繁忙に忘れてゐますが事ある毎におびやかされてゐます。

當地より海岸傳ひに北西に上るにしたがひ浪の高さも小さくなつて終止してゐる様です。

慶能舞尋常小學校

當地方はやゝ大なる地震を感じたる程度にて取立つべき被害も無之候。

従て津浪に關しては御回答の材料無之候(津浪災害地より北方約36里の地點なり)。

賀張尋常小學校

當校の通學區域内には津浪はありませんでした。随つて模様について回答する資料の何物もありません。

膽振國之部

勇拂郡 苦小牧町 西尋常小學校

當地方は津浪無之従つて参考となるべきものも無之候。

錦多峰尋常小學校

本方面には襲來不致候條此段及御回答候也。

樽前教授場

津浪來襲せず翌朝それらしき點ありたるも感ぜず。

白老郡 白老村 白老第一尋常高等小學校

當地方幾分津浪模様有りたる様子なるも微少にして被害無く而も夜中なる爲め各項調査事項不明なり。

幌別郡 鷺別町 鷺別尋常小學校

當地元老につき問合せ候處當地方に於ては50年來津浪の襲來等無之由に候。

有球郡 伊達町 長流尋常高等小學校

1. 不明。
2. 潮の満ちて來る様にデワデワ來ました。

有球尋常高等小學校

1. 不明。

2. 深夜の事とて其の瞬間より委曲申上げられず。且被害は皆無。家屋、漁舟、井戸等に至るまで。唯終日、3~4尺位の高さの程度に於て、反覆して居りました。附近の部落に於ても亦然り。其他に就ては特に申上げる事なし。

4. (イ) 音 a. 大暴風襲來の如き音。
 b. 1分位前。
 c.
 d. 西の方。

山越郡 八雲町 八雲尋常小學校

該當事項ありません。

野田生尋常小學校

1. 影響なく殆ど調査不能。
 2.
 3.
 4.

(ハ) 井泉 津浪の惨害の報導傳はりたる後井戸水が5寸乃至1尺位減じありたるに氣付きたる位なり。それも2~3人の話に止まる。

(ホ) 其他 津浪の惨害のありたる當夜干潮の時でないのに少し干潮したる由なるも判明せず。當時の地震の影響は殆んど無かりき。

山越内尋常小學校

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
無 弓 部 山 越 内 由 越 道	時 分	尺	時 分	尺	時 分	尺	大	小
	不明	不明					不 明	

2. 潮の満干に影響を及せり。差一大。不定時。 潮流一急激。
 3.
 4. (イ) 音 不明。
 (ロ) 光 不明。
 f. 無し。
 (=) 前兆 不明。

黒岩尋常小學校

黒岩は内浦灣に望める小部落なり。當部落には何等の影響無之條及此段報告候也。

山崎尋常小學校

調査資料は當地方には無之候條御回報申上候也。

渡島國之部

茅部郡 落部村 落部尋常小學校

1. 部落名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總數回	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
落部	時分 前 2 45	尺 2	時分	尺	時分	尺	回	回 1

2. 浪の高さ 2 尺餘にて水勢ゆつくりと、白波が岸に寄せる様に襲つてきました。
3. 落部 同部落に漂着。
4. (イ) 音 a. 地震の襲ふ音。
b. 10 分位前。
(ロ) 光 不明。
(ハ) 井泉 井戸の飲料水濁る。呑まれない程度。(5~6 日前)
(ニ) 前兆 なし。
駒ヶ岳を中心とする小地震常に頻々たり。
(ホ) 其他 なし。

砂原村 砂原尋常高等小學校

本海岸(噴火灣南海岸)に於ては津浪無し随つて其の影響もなし。但し三陸地方に津浪ありし際本海岸にては平常より干潮の程度が大であり又平常よりも僅か強く大浪がありし程度に過ぎず。

鹿部村 鹿部尋常小學校

1. 部落名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回數	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
鹿部村海岸一圓	時分 3 頃	尺 4	時分	尺	時分	尺	回	回

2. 夜間のことゝて詳に目撃せるものなきも漁師等の話を綜合するに午前3時頃よき風なるに拘はらず 4 尺位の浪 3 回、引続き普通の波の如くに押寄せたるに過ぎざるものゝ如し。

3. 流失物等なし.

青森縣之部

下北郡

東通村 尻屋尋常小學校

地震後程なく東南方に大砲のやうな音がしたといふ人もありますが小職共は知りません。又海岸へ最短約 10 分の距離がありますので海水の様子は不明何も被害はありません。被害物のやうに思はるゝ漂着物は一つもありません。

猿ヶ森尋常小學校

3 月 3 日の地震による津浪に關し調査方御依頼相受候處當所に於ては僅かに其の餘波として磯浪 14 間も陸に上りたる程度のものにて之も部落と海岸とは半里以上も隔て居る關係上數日後に發見したるものにして全然津浪あるを知らざりし状態に有之候依て貴問に對して乍遺憾御答ひ致し兼候條不惡御了知被下度尙津浪前にも何等の變化異狀を認めず只地震直後雪崩れでもしたかと思はるゝ音響を 1 回聞きたるのみに有之候右御回答迄。

田代尋常小學校

當校通學區域内は 30 町も海岸から離れて居ますので何等被害がありません。

地震は 1 時 30 分頃でしてそれから 10 分程してから遠雷程度の音響を聞いたのみです。

小田野澤尋常小學校

1. 地震は強かりしも津浪なし。
2. 翌朝平常より 1~2 間海岸に浪の寄せたる形跡を認むる位に過ぎず。
3. 當部にて流失せし家屋、船等なし。他より流れ來れるものもなし。
4. (イ) 音 何等の音響なし。
(ロ) 光
(ハ) 井泉 津浪の前日井水少しく濁れたりと思はると古老の言なるも不明。
井は海岸近くの井。
- (ニ) 前兆
- (ホ) 其他

上北郡

六ヶ所村 泊尋常高等小學校

1.

部落名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
大字泊	2 分 時	3 尺	3 50 分 時	12 尺	時 分	尺	1 回	4 回

2. 潮が満ちて來るときのやうでしたが、1 度寄せた波は再び下らずその上に又量を増すといふ有様でした。

寄せて來る前は潮はずつと引いてゐました。

他の部落までに 3 里半もあります故當村とは異ると思ひます。

3 時 50 分の大波は大うねりをなし海岸近くは波頭が折れて來ました。

3. 流失したものはありませんでした。
4. (イ) 音 聞えません。
 (ロ) 光 見えませんでした。
 (ハ) 井泉 一切變化はありませんでした。
 (ニ) 前兆 ありませんでした。
 (ホ) 其他

出戸尋常小學校

- 1.
2. 當所は別段に何も思ひませんでした只隣村の三澤村に被害があつた位でしたから翌日被害の話の聞いた位で、尙新聞で他方面の被害を知るに至つたのである。

3. (イ) 音 a.
 b.
 c. 地震後 5 分程經ると地響して落雷の音がした。
 d. 東南。
 e. 強し。
 (ロ) 光 見えず。
 (ハ) 別に氣が付きませんでした。
 (ニ) 前兆 なし。
 (ホ) 其他 なし。

鷹架尋常小學校

- 1.

2. 當部落の津浪は至つて弱くして損害も殆ど無く、殊に眞夜中なりしを以て、人々は翌朝起き出でし後、少し強き暴れ海であつたと、小屋を見て思つたのみで、だれも模様や浪の盛上る様などを見たるものなし。

3. 當部落には流失物なし。

只海邊の納屋内に納めありし鰯粕に浸水せるものありたり、されど流失せるものなし。舟等は冬季なりしを以てシケを恐れて遙か岡の上に引上げて置きしを以て損害なし。

4. (イ) 音 聞かず。

(ロ) 光 見たるものなし。

(ハ) 井泉 氣がつかかなかつた。別段變化なかつたと、誰でも云ふ。

(ニ) 前兆 氣がつかかなかつた。

(ホ) 其他 新聞で見て始めて、あ、それではあれが津浪なりしかと思つたのが、大部分の人にして、他にてさはぐので、自分の方も、大きく見た様なものでありました。

三澤村 谷地頭尋常小學校

谷地頭は海岸より1里も離れ居るため津浪の様子は全く不明なり只だ午前2時頃地震あり加ふるに2回の爆音を聞けり。

淋代尋常小學校

1. 津浪と知つたのが3時45分でしたが沖が暗くて何が何やら解りませんでした。飛出して見た時既に私の學校の東端から10間餘の所まで水が来て居ました。1回目も2回目も更に解りませんでした。最後の浪かと思つたのが4時10分頃に一段高く見えました。明け方の東の曇ではつきりしませんでした。兎に角學校から浪打際まで平生395米位ありますが一帯の海となつて砂濱が見えなかつたのが事實です。

2. 私の部落では皆襲來の状況は知つた者がありません。唯家の側まで浪が見えたので津浪だと叫んだ時は皆寝て居たと見えて自分が村中をおこしたやうなものでした。自分も右のやうな間に對して一々詳しくお答がつきません。

4. (イ) 音 a. 高い所から壘の上に飛下りたやうな音がしました。

b. 15分位かと思ひます

c. aの答を御覽下さい。

d. 不明。

- e. 強さといつても餘念がなかつたので a の答によられたし。
- (ロ) 光 a. 村の者が八戸の沖合に赤い火の光が見えたといひます。
 b. 何かどつと燃え上つたやうだといひます。
 c. 赤い火の光。
 d. 探照燈のやうに。
 e. 八戸鮫岫の沖合。
 f. 午前4時頃だといひます。
5. 井泉 少し不足になつた話はありませんが他には何も氣がつかせません。
6. 前兆 あの大地震で老人達は津浪が来るかも知れないといつてみたさうですが所謂前兆と思はれた様な事が前の音以外には何も認めません。
7. 其他

百石町 二川目尋常小學校

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
二 川 目	時 分 前 2 57	米 4	時 分 3 25	米 7	時 分 3 50	米 8	回 3	回 2

1. 本校の通學區域は二川目1部落なればそれについてのみの調査なり。
 暗夜の爲確實なることは知り難きも沖一帯は低き黒雲の張りなびきたる如く見ゆるは盛上りたる浪なるべし。その音もノンノンと聞ゆ。
 砂洲に上りたる浪は殆ど崩れて白く光れば明白に襲來の様を見得たり。その音は秋雨の強く枯草に注げるが如くなりき。
2. 漂着地點は何れも部落内なれど略々元地點より南西に流れたり。
3. (イ) 音 a. 聞ゆ。
 b. 津浪前約30分、發震時直前。
 c. 遠くにて大砲を放ちたるが如き音。
 d. 南東。
 e. 睡眠中の者驚き立ちし程なり。
- (ロ) 光 a. 見ゆ。
 b. 火事の如く見えしがすぐ消ゆ。消ゆる時は西になびきて廣がりし如く思はる。

- c. 電光に似て青白し。
 d. 光りそのものばかりでなくその邊一帯を明るくする位の強さなりき。
 e. 南々西の方位にて高からざる所。
 f. 當村内にて 3 月 3 日午前 2 時 32~33 分頃。
- (ハ) 井泉 地震前後に井戸水の引きたるもの 2~3 あり。其の他の變化井戸には見受けられず、井戸の位置は別紙略圖に示す。津浪襲來前二川目小川の水 2~3 寸引きたり。
- (ニ) 前兆 3 日夜気温は夜半より急降下を示し星の輝き物凄き程の快晴を示す。
- (ホ) 其他 2~3 年前より津浪襲來の流言蜚語あり。村民はこれを週期的のものなるが如く考ふ。

一川目尋常小學校

- 1.
- | 部 落 名 | 第 1 回目の津浪 | | 第 2 回目の津浪 | | 第 3 回目の津浪 | | 津浪の回数 | |
|-------|--------------|------|-------------|------|-----------|------|-------|-----|
| | 襲來時刻 | 浪の高さ | 襲來時刻 | 浪の高さ | 襲來時刻 | 浪の高さ | 大 | 小 |
| 一 川 目 | 前 3 頃
時 分 | 尺 15 | 3 30
時 分 | 尺 12 | 時 分 | 尺 | 回 1 | 回 1 |
2. (i) 津浪の來る前 30 分に大砲でも打つた様にどんと音がすると共に地ひびきし障子硝子戸はがたがたと音をたてました。
 (ii) 2 番波の前 20 分位の時も音もごくひくゝ、ひびきも小さう御座りましたが矢張どんと音がしました。
 (iii) 地震最中には光が西、南に 3~4 回光が地面から上に向つて上りました。
 (iv) 浪はくづれてデワデワと來ました然し押浪も退浪も普通の浪より非常に速い様に見受けました。
3. 本村には倒壊家屋ありません。破壊 1, 浸水 5, 流失破損, 附屬屋 2~3, 死體漂着 2.
4. (イ) 音 a. 津浪前約 30 分大砲の音のやうに 2 回ありました。
 b.
 c.
 d. 南東。
 e. 1 回は戸障子ががたがたする位, 2 回目は夫より非常に弱かつた。

- (ロ) 光 a. 地震最中.
 b. 眞一文字に地面より上に.
 c. 電燈より少し赤味あつて.
 d. 7~8 間の長さに.
 e. 南西に向つて.
 f. 2 時半から 3 時迄の間.
- (ハ) 井泉 常にはどんなに汲んでも汲切れぬ井戸も津浪 3 日前には 5 斗入
 桶で 8~9 回汲みましたら濁りました.
- (ニ) 前兆
- (ホ) 其他

百石尋常高等小學校

1.

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
川 口	時 分	尺	時 分	尺	時 分	尺	回 3	回 1

- A. 浪の高さは (明かならず) 10 尺以上はあつた.
 B. 1~3 回 (明かならず), 浪と浪との間約 5~6 分位であつた,
 C. 第 1 回浪の襲來時刻 (明かならず) 午前 3 時頃.
 D. 第 3 回浪と 4 回浪との間が相等時間であつた様に思はれる.
2. 川口部落小向仁助氏の意見談一節
 波の音がハタと止んだ。はてなと思ひまして、又家を出て沖合を眺めて居りました、ところが南の沖合から汽車でも走つて來た様な音が北の方へ移りました、するとまもなく沖から藍黑色の山の様な大波がぐんぐんやつて來ました、そして川口の砂丘を越える時浪はくづれシヤアシヤアと物凄い音をたて、一帯が眞白くなりました。
 川上へ押し流される船の速い事目に見えぬ位でした。云々
- 3.
4. (イ) 昔 a. 聞えた.
 b. 音が聞えるや否や津浪がやつて來た.
 c. 遠方から汽車でも走つて來た様であつた。明治 29 年の津浪の時
 は大砲をうつた様であつた。
 d. 南方沖合 音が北の方に移つた様に思はれた。

e. 大部強かつた。

- (ロ) 光 a. 見えた。電光に赤味を帯びた色だといふ人もある。
 b. ピカピカと見えた。潮光りと考へる。
 c. 星の光の様であつた。
 d. ピカと光ると其附近はぼんやり明る見えた。
 e. 沖合から。
 f. 津浪が最初來た時、見た場所は川口部落。

(ハ) 井泉 井戸水がかれた。

「井戸水の不足になつたのは 10 日も 20 日も以前からだ」との事である。

井戸の位置。

當地方殆ど全部の井戸が減水せるとのことである。

變化模様明かでない。

- (ニ) 前兆 (i). 鯛の大豊漁の年は 39 年前の津浪のあつた年、本年は 29 年以來の大豊漁で老人は津浪があるから油斷がならぬといつて居つた。
 (ii). 満潮の時でも去年の干潮位のものであつた。
 (iii). 當地方に嘗て獲れたことのない小鯛が昨年 9 月頃澤山とれた。
 (iv). 小禽が非常に囀つた等いつてゐるものもある。

(ホ) 其他 3 月 2 日正午から午後 1 時迄の間だと思ふ川切替工事状況見學に海岸に行つた。兩 3 日以前から海水が 5~6 尺も減じたと案内者はいつて居つた。

(海深) 案内者は海底の砂は風のため押寄せて淺くなつたのだと説明して居つた。

〔津浪〕 百石尋常高等小學校高等科 岩崎安太郎

3 月 3 日午前 2 時半頃、私達は眞にぐつすり眠りについて、夢を見つゝ寝てゐると、地震がゆり始めました。私は地震に目がさめて、そら大變だと言はんばかりにたんぜんをかぶつたまゝ、はだしで走つて大戸を開けました。間もなく電燈が消えた。兄さんは馬屋に行く途中でころんでゐる、妹はもう家を逃げ出して庭の馬肥の上に乗つてゐて私をよんでゐる。ビリビリ非常に強い。私は何の氣なしに、強いなあ、長いなあと思ひ乍らプルプルふるへてゐた。やがて地震はやまつたがまだふるえてゐる。寝

床に入つて眠らうと思つて足を踏みしめて床に上つて歩きながらもブルブルふるつてゐる、床に入つたがまだ心が落付かない、眠らうとしても眠られない、耳を澄して寝てゐると、地震がやんでから40分ばかりたつて、東南の方から「ドドン」「ドン」と2回大きな音がした。兄さんが私に津浪が来なければよいがなあと言つた。隣の家の方からガヤガヤ話してゐる音がしてくる附近がダンダンさわがしくなつたなあと思ひ乍ら耳を澄して聞いて居ると半鐘の音が響き渡つた。それと同時に津浪だ津浪だと言ふ聲が聞えた。そら大變だとばかりにはね起き、身支度をして家をとび出した、小高いところまで行くと大勢の人が集つてゐてもう1番波が来て引いたと言つていた。そして私にまだ知らないでゐる人があつてはならないからお前が叫べと言つたので私は大聲で叫んでゐるとお父さんが私に濱の製造小屋があぶない早く行つてカンダヤ、ムシロ、スダレ等を岡の方にくばれと言つたので返事をするとすぐに製造小屋に向つて一目さんに馳せつけた、途中で1度ころんでひぎの皮をひつたくりまたかけつけた。見ると浪の跡が海から300米位の處に迄來てゐる。家の小屋まで届いてゐる。小屋の中に入つてゐると岡の方から又來た——來た、來た、來た——早く逃げろ——と叫ぶ聲が聞えて來ましたのでさあ大變だ命を取られるものかと思ひ乍ら父さんと兄さんにまた來たさうだ逃げろと叫んだまゝ何も彼も忘れて一目さんに向け上つた浪はひどいなり聲をたてゝ私を追かけた、これは大變と夢中で走るもう浪は私の後2間程に近づいてゐる、やうやくの事で助かつた。小高いところに戻つて海の方を眺めると砂濱は一面に眞白だ、小屋のこわれる音がすごくビリビリと聞えてゐたが間もなく音が無くなつた、一同はたゞブルブルふるへて見てゐる。やがて2番浪もひけた今まで音がしてゐた綱堂（綱小屋）がもう何處へ行つたかあとかたもない、兄さんがもつて居た電燈をなげすてゝ走つたと云つて電燈をもつて居ない。父さんがため息をついたがまた小屋の方に行つた、兄さんも行つたので私も行つて見ると浪が400米も來てゐた。私はまた浪にこられては大變だと思つてすぐ岡の方へかけ上つた。はんしやうの音が絶みまなく聞えて來る。あつちでもこつちでも叫んだり泣いたり大さわぎをしてゐる。又沖の方がうなつてゐる。ノンノンノン何んとも言はれない程淋しい。人々は又來たと言つて叫べと言つたので私は大聲で叫んだ。又來た、來た、來た——のぶとくするなあ——早く逃げろ——と叫んだ、海の方を見ると青黒く土手のやうに見えるあれは波であらうと思つたから又前よりもつと大聲をはり上げて叫んだ、濱邊の小屋にはお父さんや兄さんが行つてゐるから特別に叫んだ。あたりのことは一切忘れて唯々叫ん

で居るとお父さんと見さんがため息をつきながら駆上つて来たので少し聲を弱めて叫んだ、浪がノロノロとダンダン岸に近いて来た、今まで黒く見えた濱が白く一面雪のやうに見える、又ビリビリビリと音がして居ると思ふ間もなく水がひけたので行つて見ると私の家の製造小屋がこわれて製造道具がみんな流されてしまつてゐる。船が小屋の中に入つてゐる、雪に水がまじつて長靴でなければ歩かれない。もう東の方は明るくなつて来た私は綱堂の跡を見ようと思つて短靴をはいて行つて見ると雪が深くそれに水が含まれてゐるから靴に水が入る。ヤウヤウそこまで行つて見ると土臺ばかり残つて綱堂はきれいに跡方も見えない。あたりにはごろが1本、くひが3本横たはつてゐた。寒さがきびしいので家へ歸らうと思つて走つたが3尺も積つてゐる水雪をこいだので甚だつめたい、やうやくたきびをしてゐる場所についた私もたき火にあたつて家に歸つた。云々

◆綴方の一節 本人は百石町大字二川目部落から通學して居る兒童です。その兒童の遭難實話と思召して下さい。

三戸郡

下長苗代村 下長苗代尋常小學校

本村は沿海村ではありますが民家は海から遠く離れて居り且つ夜間の出来事でもあり、津浪の状態を目撃した者はありません。又前兆と認むべき何物も聞きませんでした。切角の御諮ねに對し何等御参考となるべき材料を差上げる事の出来ませんことを遺憾に存じます。

八戸市

鮫尋常小學校

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
鮫 町	時 分 3 30	尺 6	時 分 4 頃	尺 8	時 分 4 30	尺 11	回 3	回 5
同 深 久 保	3 30	8	4 頃	10	4 30	12	3	5

2. 鮫町の狀況

第1回目最初に潮を引くこと最干潮時より甚しく、襲來するときは盛り上るが如く第2回目にも初は潮を引き、而して襲來する時は盛り上るが如く且つうづ巻くが如し。第3回目には潮を引くこと少く、而して襲來の様子は浪頭を折り返して猛烈に押寄せたり。

深久保の状況

鮫町と同様なり。

3. 鮫町 西へ流れたり。但し翌日西風のため太平洋を流れ去り行方知れず。
深久保 西北へ流れ後鮫町と同様。
4. (イ) 音
 - a. 地響きするが如き重音を感ず。或は遠方より浪音を聞く。
 - b. 5分位前に前者の響を感じたり。浪音は直前に聞く。
 - c. 前と同じ。
 - d. 北の方向より聞く。
 - e. 鈍重的に遠方より。
- (ロ) 光
 - a. 或る人は空は明くなれるを見たりと。
 - b. 少し明るく見たりと。
 - c. 赤く。
 - d. 青く光つたと言ふものもあり。
 - e. 北の方に。
 - f. 海岸で地震前に。
- (ハ) 井泉 地震のため湧泉は濁れるもの數箇所。但し前より濁れ又は濁れるを聞かず。
- (ニ) 前兆 大漁続きであつた。(明治29年と同様)
- (ホ) 其他

白濱尋常小學校

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
白 濱	時 分 2 40	尺 8	時 分 3 30	尺 9	時 分 3 20	尺 10	回 4	回

2. 押寄せ直前はパツカリと浪音絶へ静かになつた(不思議に思はれる程)そしてモクモクと盛上る様に來て岸にドツト打付け大きな轟音がした。各回とも同じ様に思はれた。
3. 白濱 流失船舶の漂着所不明。
たゞ流されたものは同部落の北方岬により上つた。
4. (イ) 音
 - a. なし
 - b. なし

- c. なし
 d. なし
 e. なし
 (ロ) 光 a. なし
 b. なし
 c. なし
 d. なし
 e. なし
 f. なし

(ハ) 井泉 津浪後井戸水の白く濁れるを發見せるものあり.

(ニ) 前兆 なし.

(ホ) 其他

岩手縣之部

九戸郡

種市村 平内尋常小學校

1.

部 落 名	第 1 回目 の 津 浪		第 2 回目 の 津 浪		第 3 回目 の 津 浪		津 浪 の 總 回 數	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
川 尻	時分 4 15	尺 5	時分 4 55	尺 7	時分 5 15	尺 11	回 4	回 5
平 内	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

2. 第 1 回目第 2 回目は未だ暗きため良くわからず而し第 3 回目以後のものは下からモクモクと盛上る様に來た.

隣部も同じ様なり, 第 3 回以後の私共の見た時の來方は各回共同じ様なり.

3. 川尻 當部落の流失物は幾部は其の場に漂着したるも大部分は漂着せず.
4. (イ) 音 a. 音が聞えた.
 b. 約 35 分位前.
 c. 雷鳴の様な音.
 d. 東の方向から.
 e. 遠方で大砲を發射した位の強さ.
- (ロ) 光 a. 見えた.

- b. 電光の様に.
 - c.
 - d.
 - e. 東の方向.
 - f. 川尻部落, 3 時 40 分.
- (ハ) 井泉 なし.
- (ニ) 前兆 なし.
- (ホ) 其他 なし.

種市尋常高等小學校

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
川 尻	3 10 ^{時分}	12 ^尺	3 40 ^{時分}	15 ^尺	3 50 ^{時分}	20 ^尺	3 ^回	2 ^回
横 手	〃	10	〃	10	〃	15	3	2

2. 潮の満ちて来る様でなく下からモクモク盛上る様に來た様です。
浪は逆巻いて來ました。
4 回目以下は潮の満ちて來る程度の強い様な有様。
- 3.
4. (イ) 音 a. 海岸人は聞かぬ, 5 里 7 里位山奥の村では大砲をうつたような音をきいたそうです。
b. 不明.
c. 大砲をうつた様にドンドーン.
d.
e. 夜ねてゐても驚くほどの程度.
- (ロ) 光 a. 見えた.
b.
c. 青白かつたとのこと.
d.
e. 東南.
f. 種市村横手.
- (ハ) 井泉 井戸水がひけて少なくなつたそうです.

(ニ) 前兆 不明.

(ホ) 其他 津浪の夜は眞暗やみでわからなかつたが、色々起きてゐた人や其他見た人などからきいて大體を記したものです.

城内尋常小學校

當學區は海岸を去る 2 里北上山脈の麓にあり殊に地盤堅固にして差したる事なかりしも余程以前より河水の激減せるを見たり.

中野村 中野尋常高等小學校

1. 部落名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
小 子 内	時 分 3 30	尺	時 分 3 40	尺	時 分 3 50	尺	回 6	回 無數
中 野	〃		〃		〃			

備考 夜半なれば浪の高さを目撃せし者なし.

- 夜半のことゝて當座の様子は不明なれど翌朝の小津浪の有様より推量するに襲來せんとするに先だち 1 度潮干たる如く浪引きて後下からモクモクと盛上る如くに襲來したる如し.
- 當中野村の流失せるは磯舟全部、家屋は 1—2 軒の茅屋のみ、然して磯舟の全部は北方に流れ發見せるものなし.

家屋家財は當村海岸へは漂着せず隣村種市村（北方）海岸へ漂着せるならん.

- (イ) 音 約 20 分前大砲の如き音 3 回程聞えたり.
- (ロ) 光 約 20 分前青白い光線を見たるものあり. 見た場所は小子内方面.
- (ハ) 井泉 中野部落の井戸涸れ、濁りし所あり. 其他方々の家にてかゝる現象を目撃せるものあり.

然して津浪の前後共かゝる現象ありたり.

(ニ) 前兆 稍迷信的なれど、海の貝（しうり、まりこ）など食せるに腹痛せし者多しと.

又鮑の陸上めがけて來たる珍現象を呈せり.

(ホ) 其他

夏井村 平山尋常小學校

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
半 崎	時 分 3 00	尺 20	時 分 3 4	尺 15	時 分 3 10	尺 25	回 3	回 2

- 潮の満ちて来る様にデフデフと押寄せ浪の前方はくづれて来た様でしたが、大きな石は動かされて来たので下からも盛り上がりながら来た様であります。津浪の來方は同じ様に來たさうであります。
- 大部分同部落に漂着しました。
- (イ) 音
 - 聞えました。
 - 25分位前に聞えました。
 - 遠方からの自動車様の音がしました。
 - 南方の沖合より聞えました。
 - 50間乃至100間位離れた距離より自働車の音を聞く強さ。
- (ロ) 光
 - 見えました。
 - 水平線上に探海燈を以て照らした様に見えました。
 - 青く見えました。
 - 普通の海上より高く一線に光りました。(波の押よせる時らしい)
 - 南より東に一線に。
 - 半崎海岸 午前3時。
- (ハ) 井泉 なし。
- (ニ) 前兆 なし。
- (ホ) 其他 なし。

夏井尋常高等小學校

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
半 崎	時 分 3 0	尺 20	時 分 3 4,5	尺 16	時 分 3 8,9	尺 25	回 3	回 2

- 半崎部落は同村平山小學校學區に付、平山小學校より精しき御報告を申し上ぐる筈であります。

3. 半崎不詳.
4. (イ) 音 a. 聞えました.
 b. 5~6 分前.
 c. 自動車のエンジンに似た音.
 d. 南方沖.
 e. 40~50 間距やつた所に聞える自動車の音位.
- (ロ) 光 a. 見えた.
 b. 水平線に沿ふて相當高く見えた.
 c. 青色? 暗夜に浪が光る如き色.
 d. 浪の色かも知れぬと地方民が云ふてゐる.
 e. 沖の方一帯.
 f. 半崎, 2 時半から 3 時過ぎまで.
- (ハ) 井泉 別に著しい變化はなかつた様です.
- (ニ) 前兆 別に存じません.
- (ホ) 其他 別にありません.

下閉伊郡

普代村 普代尋常小學校

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
普代部落	時 分 2 50	尺 15	時 分 3 0	尺 16	時 分 3 15	尺 12	回	回
太田名部部落	2 50	15	3 0	16	3 15	12		

2. ドツと水鐵砲の様に打付けて見る間に一面に水泡となつた様です.
 凡 3 回位大きなものが來た様です.
 小浪は幾回も來た様です.
3. 太田名部部落の流失物は太田北側の普代濱邊に打揚がる.
 普代部落の流失物は太田北側の岸邊に打揚がる.
4. (イ) 音 a. 聞えました.
 b. 1. 4 分程前 (確です) 2. 時間不明.
 c. 1. 風の如き音, 2. 大砲の如き音.
 d. いづれも東南方より.

- e. いづれも弱く.
- (ロ) 光 a. 見えました.
- b. 一般に明るく.
- c. 橙色.
- d. 火事の時の如くボーツと.
- e. 北東.
- f. 地震後 10 分頃, 場所黒い丸の位置. (報告普代村の項参照)
- (ハ) 井泉 なし.
- (ニ) 前兆 なし.
- (ホ) 其他 なし.

小本村 中島尋常小學校

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 1 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
小 本 村	時 分 3 30	丈 尺 1 3	時 尺	丈 尺 1 5~6	時 分	丈 尺 1 2~3	回	回

備考 夜明る迄數回順次に小さく 5 時頃にて全く止む.

2. 1 回目はデワデワと.
- 2 回目ドツと.
- 3 回目ヂリヂリと.
- 4 回目 (1 丈以下) 6~7 尺同上.
- 5 回目たいへんおとなしくデワデワザワザワ.
3. 新聞紙上にくわしく報道した様でした (岩手日報).
4. (イ) 音 a. 30 分前に大きな音がし地震があつた.
- b. 30 分位前に 1 分以上に渡る地震があつた.
- c. 天地も振るはす様な音があつた.
- d. 岩手下閉伊郡小本村東南.
- e. 普通地震の時の 3~4 倍.
- (ロ) 光 a. 見えたそうです. (人から聞いた).
- b. ぼうと赤く而かもぼんやりと.
- c. 赤く.
- d. おぼろ月夜のように.

e. 東南・(南に近く)

f. 下閉伊郡小本村より西 2 里.

(ハ) 井泉 普通だと思つて居るけれど 1 ヶ月位前から井戸水は不足でした.

(ニ) 前兆 何もあつた様な氣はしなかつた.

(ホ) 其他

田老村 田老尋常高等小學校

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
	時 分 3 00	尺 20 内外	時 分 3 1~2	尺 20 以下	時 分	尺	回 2	回 4~5

1. 最初小浪(地方にてヨダと稱する程度)あり 2 回目最大(20 尺位か)其後は次第に衰へて數回あり. 6 時頃にも小浪の襲來を見たり.

強大なるもの 2~3 回其の浪間は凡そ 1 分位と思はる.

上記する所兒童職員は勿論其の他多くの人々により調査したるも 1 人として判然たる答を與ふるものなく想像を加へて記したり.

本村は全滅の厄にあひ各人極度の恐怖に陥り人心動搖辛じて浸水せず避難したる者もなきさけぶ者疎えんとするも重輕傷者等の中にあり加ふるに暗夜のこととて浪の高さ回数其の他能く知りたるものなし.

2. 20 尺内外の高さにて浪の上表面だけ白波をけたて、それより下方は只黒く見えて押してくる様に見えたといふものが多數であります.

これがためですか風が起つて浪に先立つて家が倒れたといひます.

各回共同じ様な來方なやうです.

3. 荒谷, 田中 海岸と灣内は引水にとられ流されて出たものですが他は皆押流され破壊して積み重つた部落のみです. 乙部, 青砂里方面は大部分引水によつて海の方へ運ばれました. 舟は大平方面に大破損或は破片等いつてゐました.

4. (イ) 音 高臺部落のものは音をきいたともいひますが當部落にては只浪のよせて來る大きな音しかききません.

(ロ) 光 光を見たといふものはない様です.

(ハ) 井泉 津浪前後ではありませんが冬期以來そんなに涸れたことのない井

戸や涌泉等が濁れたのでした津浪後は暖氣の加はつた関係もあり
ませうが水が出てきました又濁れたためですか底に残つてあつた
水が濁つた所(小林の井戸)もありました。

(ニ) 前兆 何もあつたと思ひません。

(ホ) 其他

田老尋常高等小學校小田代分教場

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
	時 分 3 00	尺 不明	時 分 3 不明	尺 不明	時 分 3 不明	尺 10 位	回	回

備考 田老村のつゞき、津浪の押寄の順次とす

1. 大平
2. 小林
3. 町(部落の真中)
4. 川向
5. 青砂里

2. (1) 水鉄砲の様に1分間に10米位の早さにて波は崩れて丁度山上の林を暴風がサーサーと吹く様な音響を立て、來襲せること。
- (2) 未だ津浪の來ぬ前から非常なアフリ風にて部落の家屋は所々破壊し家屋の破片其他色々の物飛散甚しく人畜の慘傷氣絶する者其數を知らず。
- (3) 以上の場合に直に大津浪襲來あり逃るに路なく、登るに峻坂なる悪路、幾百人の人命見る間に波浪に没る。
- (4) 電燈は全く消え暗黒の夜と化し零下15~16度の寒氣夜明迄に凍傷にて慘死せる者夥し約1000餘人。
- (5) 港灣の崎や岬の迂曲の關係か同じ灣内でも南西より侵されたること。
先づ上記入の如く大平、小林、町(部落の中央)川向、^{あなざり}青砂里の順序
- (6) 3日午前2時半大地震あり同3時直ちに津浪襲來あり。
「小生儀任地當分教場は此度被害せる田老灣より1里餘西方山地に在り直接には關係なきも見聞の儘を實地御報告致し候に付御承知願上候」
本縣出版の岩手日報10日分御郵送候間參考下され度候也。
3. どうも流失物の漂着は殆ど在りません。
割合に岸邊に漂着しません。
如何にも3日の日中は田老灣には家の屋根其他破損物灣内の1/3程浮んで居るを見たるも風波の爲に全く沖流となり其形跡も見せず。

陸上田老村は一夜の中に砂子の原と化せり。

最も警察署よりの流失物の届出を各町村に注意ありたるも些々たる物に過ぎず。

4. (イ) 音 a. 更に聞えず。

b. 同。

c. 同。

d. 更に聞えず。

e. 同。

(ロ) 光 a. 沖(太平洋)より丁度夜行の自動車前燈の光の如し。

b. 青くダンダンと岸に近づく。

c. 青々と。

d.

e. 沖の方向より岸邊に。

f. 沖の浪と同時に午前 3 時頃。

(ハ) 井泉 津浪の當夜地震と同時に一時どつと海水引き潮となり海岸に面したる川水、井戸水も當夜涸れたる模様。

(ニ) 前兆 昭和 7 年 9 月より 10 月頃まで三陸沿岸の岸邊に非常なる鮑打揚げられたり(病鮑)。漁民は「石灰さう」の爲ならんと。

(ホ) 其他

崎山村 崎山尋常高等小學校

部 落 名	第 1 回目 の 津 浪		第 2 回目 の 津 浪		第 3 回目 の 津 浪		津 浪 の 總 回 數	
	襲 來 時 刻	浪 の 高 さ	襲 來 時 刻	浪 の 高 さ	襲 來 時 刻	浪 の 高 さ	大	小
	時 分	尺	時 分	尺	時 分	尺	回	回
日 出 島	2 40	30	2 45	20	2 50	0	3	
中 ノ 濱	〃	20	〃 44	15	〃 48	10	3	
宿	〃	12	〃 46	20	〃 52	15	3	
女 遊 戸	〃	15	〃 44	10	〃 48	5	3	
大 澤	〃	8	〃 43	12	〃 46	6	3	

2. 日出島、中ノ濱、女遊戸、大澤の各部落は下からモクモクと盛上る様に來ました。

宿部落は逆卷いて來ました。

津浪は各部落とも各回共同じやうな來方でした。

3. 女遊戸 } のものは長濱へ、(崎山村大字宿の陸續き東方)
宿 }

他の部落不詳。

4. (イ) 音 a. 聞えました。
b. 5分位前に。
c. のうのう。
d. 沖の方。
e. 野砲の發砲位。(不詳)

- (ロ) 光 a. 見えました。
b. 壘1枚位の大きさ。
c. 赤。
d. ばちばちと。
e. 沖の方。

f. 場所女遊戸、津浪の3分位前。

- (ハ) 井泉 津浪の数日前井戸水が濁れました。

井戸の位置は、報告崎山村の項参照。

津浪の際、川の水はすっかり濁れました。

- (ニ) 前兆 鮑の陸に寄せられるもの多かつたこと。近年にないわしの大漁なりとの由。

- (ホ) 其他。

宮古町 宮古尋常高等小學校

部落名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻 時分	浪の高さ 尺	襲來時刻 時分	浪の高さ 尺	襲來時刻 時分	浪の高さ 尺	大	小
宮古川口	3 11	8	3 22	12	3 35	8	3	回
鉾ヶ崎	"	"	"	"	"	"	"	

備考 爾後小動搖を繰返して漸時沈靜セリ。

2. 波浪の押寄せて來る有様は下の方からモクモクと水が盛上つて來たと云はれて居ます。
3. 宮古川口→宮古川殘瀬。

鉦ヶ崎→鉦ヶ崎.

4. (イ) 音 不明.
 (ロ) 光 不明.
 (ハ) 井泉 津浪直前に町内一般の井戸は濁れた. 其後の変化はなき如し.
 (ニ) 前兆 なし.
 (ホ) 其他 なし.

津軽石村 赤前尋常小學校

1. 部落名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
乙堀内	時分 3 5	尺 12	時分 3 16	尺 15	時分 3 29	尺 9	回 3	回 6
小堀内	3 6	12	3 17	15	3 30	9	3	6
釜澤	3 7	12	3 18	15	3 31	9	3	6
柳澤	3 8	13	3 19	16	3 32	10	3	6
油牛	3 9	14	3 20	17	3 33	12	3	6
眞下	3 9	14	3 20	17	3 33	12	3	6

2. 當夜は闇の夜で明かに知る事は出来ませんでしたが大々の話を綜合して、波は灣口より白く泡を立て、襲來しました。沖に居た船はこれを感じないといひますから海底から盛上る様に來た事と思ひます各部落とも500米位の山の麓の海岸の低地にありましたから各部落とも同じ模様でありました波は各回とも同じ來方でありました。

3. 柳澤→油牛, 眞下, 乙堀内.

船は海岸よりそれ續く田畑に押上げられ渚より2町も押上られしもの多し.

4. (イ) 音

- (ロ) 光 a. 1里餘隔てた灣口に當つて見えた.
 b. 白く明るく見えた.
 c. 白く灰かに青く.
 d. 海面上だけに見えた.
 e. 北方にある灣口に.
 f. 學校の庭. (部落名眞下) 3時50分頃

(ハ) 井泉

(ニ) 前兆

(ホ) 其他

大澤村 大澤尋常小學校

1. 部落名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
大澤	時分 3 0	尺 20	時分 3 10	尺 22	時分 3 20	尺 10	2回	1回

2.

3.

4. (イ) 音 a. きこえた.
 b. 7~8分前.
 c. 遠くより自動車でも走つて来るやうな音.
 d. 東南.
 e.

- (ロ) 光 a. 見えた.
 b. }
 c. } 流星の如し
 d. }
 e. 南東.
 f. 小學校庭午前2時55分.

(ハ) 井泉 當村寺の境内にある井戸數日前より減水尺餘, 少しく濁れり.

(ニ) 前兆

(ホ) 其他 あの強震にもかゝらず鳥鳴かぬ.

織笠村 織笠村白石分教場

當分教場は海岸をさる1里餘の山中に有之報告事項無之候

船越村 船越尋常高等小學校

1. 部落名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
船越	時分 3 5	尺 13	時分 3 12	尺 18	時分 3 20	尺 16	2回	5回
田ノ濱	3 5	19	3 12	24	3 20	20	3	4
大浦	3 10	10	3 15	14	3 20	12	4	3

2. 船越 潮の満ちて来る様にヂワヂワと來ました。
 田ノ濱 モクモクと盛り上る様に。
 大浦 モクモクと盛り上る様に。
 一般に通ずる現象として、浪の家に當らない前に家の板垣等がはぢき飛ばされました。小さな浪となるにしたがつて、普通の磯波の様になりました。
3. 船越 } 報告 船越村の項参照
 田ノ濱 }
 大浦 同
4. (イ) 音 a. 田ノ濱ではラツパの様な音を聞いた。船越 田ノ濱は浪の音。
 b. 津浪より3分位前から。
 c. 遠潮鳴りの様に。(波の進行の音)
 d. 南西の方向。
 e.
- (ロ) 光 a. 3 區にてそれぞれ見た。
 b. 船越、田ノ濱では横に、大浦では縦に長く。
 c. 船越(青白く)、田ノ濱(うす赤く)、大浦(黄色)。
 d.
 e. 船越 S 60° E, 田ノ濱 N 70° W, 大浦 N 35° E。
 f. 船越、田ノ濱、大浦 いづれも津浪3分位前に。
- (ハ) 井泉 船越、1ヶ所 3日位前より、合せて5日にごつた。
 田ノ濱、1ヶ所 津浪後2日濁つた。
 大浦、2ヶ所
 イ. 水量が津浪の來る時へつた。
 ロ. 津浪後20日ばかりにごつた。
- (ニ) 前兆 鯛が豊漁であつたこと。
- (ホ) 其他

上閉伊郡

大槌町 大槌尋常高等小學校一ノ渡分教場

當部落は海岸を距る約6000米の山間にあり、御照介の該當欄に一々御答へすべき材料も御座いません。たゞ本分教場隣家なる藤原定助氏なる者彼の地震に依り「炭ガマ」

一木炭製造の一の崩壊して火災を出す恐れあるを慮り、炭「Gamma」を見届けに駆付たる歸途に遭つた出来事を表に記入いたしました。

4. (イ) 音 a. 聞えました, 地震後約 12-3 分.
 b. 不明. 當部落は海岸より約 6000 米引上りの山間.
 c. 雷鳴の如く, 大山崩れの如き音.
 d. 東北の間, 稍北寄の方向.
 e. 稍強き雷鳴程のもの.
- (ロ) 光 a. 見えました.
 b. 空一面明るくなりました.
 c. 薄い青光.
 d. 探照燈の如く東より西へ, 續けざまに 2 回走りました.
 e. 東より西へ走り, 南寄りの空は特に光が強くありました.
 f. 岩手縣上閉伊郡大槌町大字小槌. 地震後約 15 分.
- (ハ) 井泉
 (=) 前兆
 (ホ) 其他

鷓住居村 箱崎尋常高等小學校

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
箱 崎 桑 濱 白 濱 假 宿	時 分 3 05	米 4.3	時 分 約 15	米 4.1 10	時 分 25	米 3.3	回 3	回 不明
	正確なる時計なし							

2. 下からモクモクと盛上る様に.
 各回共同様な來方.
 箱崎部落浪高第 2 回は低きも力強かりしと見え, 學校まで襲しは第 2 回の浪でした.
 他部落は不明です.
 桑ノ濱は第 2 回は高く 10 米位あつたさうです 3 丈 2 尺といひます, 同方面の兩石は 4 丈といひます.

3. (報告鶴住居村の項参照)

箱崎はどこにも行かないで海岸に.

桑ノ濱は對岸に右を廻つて流れ去る.

白濱部落同量ならん.

4. (イ) 音 a. 聞えた.

b. 約 10 分位.

c. 遠雷の如く.

d. 眞東より 15 度位南.

e.

(ロ) 光 a. 見た人も相當ある.

b. ぼうつと白く.

c. 山陰で探海燈を向けた様.

d. ?

e. 東南.

f. 學校附近 音のした少し前.

(ハ) 井泉 箱崎部落の井戸全部濁つて 3, 4 日間呑まれなかつた.

津浪前は氣が付かない濁た様にも思はなかつた.

紫色に見えた等いふ子供もあつたが疑はしい.

(ニ) 前兆 ない.

(ホ) 其他 我々は津浪に經驗なきも只何だか普通の地震ではないと氣付いた

併し津浪は來るとは思はなかつた, だがもしやと思はないわけでもなかつた.

白濱分教場

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻 時 分	浪の高さ	襲來時刻 時 分	浪の高さ	襲來時刻 時 分	浪の高さ	大	小
白 濱		6 尺以上		8 尺以上		6 尺以上	4	
假 宿							4	

時刻は不明です. 大槌を侵ふた浪よりは凡 10 分以上も早かつたと思ひます. 白濱部落の第 2 回の浪が過ぎてから大槌や安渡對岸の電燈の消へたのを見ましたと記憶致しますから.

2. 第1回の津浪 ドツと音響強く崩れたる模様なるも怒濤岩と激突する勢にはあらずと。

引き足早く、干潮線を干くこと10間プラスとも夜目に見えたり。

第2回目の津浪 第1回の引きて數分にて來り、潮の満ちる様にも似たり、下からモクモクと盛上る如くにも見えたり、一番大きく高く寄せて引く潮の早きこと、瀧瀬の如く騒然として引きたり。

第3回 第2回の規模の小なる形なり、第4回も同じく、以下益々其の水勢弱りて間斷なき平常の波へ復歸せり。

3. 大槌→白濱

安渡→白濱

室濱→白濱

死體(安渡より)49日にて白濱に漂着

4. (イ) 音

(ロ) 光 a. 見えた。

b. パツト南の山の端にひろく。スパークの如く何回も。

c. 青白く光度弱し。

d. スパークの様に何回も。

e. 南の山の端一面。

f. 白濱、第4回の津浪あたり。

(部落の人は波の光と云へり。)

(ハ) 井泉 白濱部落は水道なり。前夜(2日午後6,7,8時頃)水道の水少し混濁せりとの話あれどつまびらかならず。

(ニ) 前兆 海水の色例年と異り馬の小便の如く變り、又混濁せりと。干満不規則にして、時ならぬ波あり、又津浪前日潮汐が尋常でなく、風がないのに浪荒れ、磯の採集も出來ず歸りたりと。

(ホ) 其他 前年(昭和7年)の磯草採集にはめのこ(こんぶ)例年に比して非常なる不作なり、めのこの不作は當地に於て饑飢の兆とせり。

地震には雉必ず鳴くとせらる。津浪の地震には雉鳴かずと噂あり(これ38年前の地震もかくあつたとか老婆の話)。

釜石町 釜石鑛山尋常小學校

1.

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 1 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
	時 分	丈 尺	時 分	丈 尺	時 分	丈 尺	回	無 數
釜 石 町	3 3	丈 1 尺 2	3 13	丈 1 尺 5	3 20	丈 1 尺	4	無 數
2. 第 1 回目の津浪より第 2 回目までは約 10 分, 第 2 回目より第 3 回目の津浪までは約 7 分.
モクモクと盛上る様に來ました(釜石灣の各部落)
各回共同じ様な來方でした.
3. 釜石町宇龍ノ澤及越路→泉田海岸へ.
4. (イ) 音 a. 津浪前に音を聞いている.
b. 津浪前 25 分位.
c. 遠くにて大砲を打つ音.
d. 釜石の沖の方.
e. 町民の騒大にして其の音を聞かざるもの多く音の強さ不明.
- (ロ) 光 a. 不明.
b. 不明.
c. 不明.
d. 不明.
e. 不明.
f. 不明.
- (ハ) 井泉
(ニ) 前兆
(ホ) 津浪前日大槌灣口沖 4.5 哩附近に於て大きな潮の渦巻を見た船がある.

平田尋常小學校

1.

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
	時 分	尺	時 分	尺	時 分	尺	回	回
下 平 田	3 5	尺 7	3 10	尺 12	3 15	尺 10	1	2
2. 部落民の語る所によれば津浪は想像外にて 3 回ともモクモクと盛上りて來れり

と云ふ。何しろ丑3時の事然も突然の出来事故判然たらざれども、何れの人もかく云ふ。

3. 石濱 隣接部落内の濱にて人家1軒もなし。38年前の津浪の際にもこの濱に澤山の漂着物ありしといふ。他は大部分當部落内陸地に破れたるまま置去き去られたる態なり。老婦人1名の死體は大向濱に上りたりと云ふ。
4. (イ) 音
 - a. 雷の如く、或は爆發物の作業中の音の如し。
 - b. 約5分位前と綜合して話しが出来る。
 - c. 盛上る波の音なら、強風の音の如く1,2分前より聞えたり。
 - d. 沖の彼方に、しかも次第に近寄りて。
 - e. 重複のきらひあれども強風の如く。高波の音とも云ひ得る。
- (ロ) 光
 - a. 沖に見たるものあり。山に見たるものあり。一帯に見たる者もあり。
 - b. サーチライトの如く。稲妻の如く。たゞ明るく。
 - c. 青茶色、青色、何づれも判然たらず。
 - d.
 - e.
 - f. 不明。
- (ハ) 井泉 後日になりて、正しく井戸水が涸れてゐた等語れり。晴勝の天氣に寒さが厳しければ水は凍りて出でぬならん等とのみ考へ居たる態なり。井戸と云ふ井戸全部にて、どの井戸が特別に水涸れをした等の事は全然判らず。
- (ニ) 前兆 後日に至りて或ひは語る。猫、ねづみ、等は2~3日前から音も出さなかつたとか。
- (ホ) 其他 昨年あたり釜石町大字釜須賀濱に大潮とか稱して小津浪に似たるものおしよせたる事等あり。最近海の波の定まらざる事は漁夫ならぬ者にも氣付ける事なりし。

氣仙郡

唐丹村 小白濱尋常小學校

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
花 露 邊	時 分 2 5?	尺 15	時 分 1 後	尺 20	時 分 1 後	尺 12	回 2	回 2
本 郷	3	25	1 後	35	1 後	25	3	1
小 白 濱	2 5?	20	1 後	30	1 後	25	3	1
片 岸	2 5?	12	1 後	25	1 後	20	3	1
荒 川	2 5?	15	1 後	25	1 後	12	2	2

2. 花露邊部落 大うね形に潮の満ちる様.
 本郷部落 上部が巻きくづれながら押寄せて陸上に來りて渦流せり.
 小白濱部落 デワデワと上部が水鐵砲の様に潮を吹き上げて來た.
 片岸 小白濱と同じ.
 荒川 大潮の押寄せる如くデワデワと來た.
 大石部落 大潮の如く 1 丈 2~3 尺浸水せるのみにして破壊力全くなし.
3. 花露邊→海岸附近に流出, 後は赤磯邊へ.
 本郷→山手に押込まれ, 後は花露邊海岸へ.
 小白濱→片岸へ流され後は寺の下に押込み, 灣内に大部分出る.
 片岸→山手に押込まる.
 荒川→山手に押込まる.
4. (イ) 音 a. 3 回音響聞ゆ. 普通の人は 1 回だけ聞く.
 b. 7, 8 分前に大音響. 2 日の午後 9 時 40 分位に小音響 2 回.
 c. 遠雷の如く, 大砲の如く, 石垣の崩れる如し.
 d. 東南方.
 e. 2 軒位の遠くで小銃の音の如し.
- (ロ) 光 a. 見えたり.
 b. 稻妻の如く.
 c. 紅黄色青色.
 d. 下部は縦の模様上部は横に模様を作りたり.
 e. 東南方.

f. 音響より一寸早く.

(ハ) 井泉 小白濱部落の東部の井戸が3,4日前より水量減ず.

(ニ) 前兆 前夜小白濱灣口附近は海水移動甚しかりき. 本年は昨年末より近海は常には南流するのが北流してゐたること.

(ホ) 其他

越喜來村 崎濱尋常小學校

1.

部落名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
崎濱	時分 3 15	尺 20	時分 3 20	尺 23	時分 3 27	尺 18	回 3	回 不詳 6?

2. 潮の満ちて來る様にデワデワと來ました. それが結果から見れば水鐵砲の様に打ちつけて來た様に思はれます.

2回3回も同様かどうかははつきり解りません.

3.

4. (イ) 音 a. 聞えた.
b. 15分位.
c. 底力のあるダイナマイトの様な音.
d. 聞いた人がみな同一方向ではない.
e. ?

(ロ) 光 a. 見えた
b.)
c. } 沖一面に夕焼けの様な光, 空の星までも赤く見えた.
d.)
e. 南東東.
f. 西端, 地震直後.

(ハ) 井泉 それに氣付いた人はなかつた.

(ニ) 前兆 なし.

(ホ) 其他 潮流の方向が一定しなかつた.

越喜來尋常高等小學校

1.

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
浦 濱	時 分 2 58	尺 約 10	時 分 2 59	尺 約 20	時 分 3 00	尺 約 17	回 3	回 6

2. 第 1 回目は潮の満ちて来るやうにデワデワと来て、第 2 回目、第 3 回目は下からモクモクと盛上る様に來ました。各部落とも同様の來方です。

第 1 回目の津浪の來る前に甚しく潮が引きました。

3. 浦濱→浦濱 崎濱

泊→泊 崎濱

甫嶺→崎濱

崎濱→崎濱

(イ) 音 a. 音が聞えた。

b. 5, 6 分位前。

c. 大砲を打つた如き音。

d. 沖の方に聞えた。

e. 強かつた。

(ロ) 光 見たといふ者あれども詳細は知り得ず。

(ハ) 井泉 a. 甫山領 龍昌寺内の井戸 濁水せり。

b. 泊 平田玉男の井戸 海嘯前 3 日より井水混濁。

c. 村社新山神社々務所の井戸 海嘯前 4~5 日より混濁濁水。

d. 浦濱 及川義雄の井戸 混濁濁水せり。

e. 浦濱 熊谷與左衛門の井戸 混濁濁水せり。

f. 崎濱 正源寺内の井戸混濁。

(ニ) 前兆

(ホ) 其他 昔から當地方では「津浪の地震にはキジが鳴かぬといつてゐます。

が、今回の津浪前の地震の場合にキジは鳴かず馬が嘶きました。

綾里村 砂子濱尋常小學校

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
	時 分	尺	時 分	尺	時 分	尺	回	回
綾 里 村							5	
砂 小 濱						50		
小 石 濱						40		無 數

大と數へ得べき波浪の寄せ來りしは 5 回に候も最大は 3 回就中その 3 回目のが大なる次第に有之候。最高の浪の高さ等は其の襲はれし痕跡に就き調べ尙且つ目撃者に據りての調査故大體あやまりなきものに御座候。

2. 洋上遠き所より岸に來る迄はモクモクと盛り上る如く襲ひ來り岸に到り家屋を上を浮かし押し上げ引き波は極めて強く總てを拉し去り了る是は兩部落とも同じ。

破壊せられたる建物等にして極めて高き河川の上に置き去りにせられたる物につきて調ぶるもその上頂部等の全く濡れざるもの多きに見るも尙この事實を徴し得べし。

3 月 3 日 午前 2 時 31 分強震に入り此の強震の時間を約 7 分間とし其後 20 分にして海嘯の襲來となる。

海嘯の襲來當時は微風だに無かりしに海灣内蕭颯として宛も空林を亘る大風の如き音しつゝ波濤の到れるは岸を傳へて噛み來れるものか或は又波の捲き廻しつゝ洋上を渡れるものか定かならず但しその蕭颯むしろ涼々たる響きを聞きしは何人も皆一様に同じとする所なり。

3. 砂子濱 大體其自らの部落に漂着。

小石濱 右同斷 但し何れも大部分は流亡して僅微の一部分のみ漂着。

4. (イ) 音 大礫の如き音を聞く。明治 29 年 6 月 15 日午後 8 時は殷雷の如かりし 約 7~8 分前。釜石以東の洋上。

(ロ) 光 大礫の如き音したる時洋上に眞直なる光を見たるものありしといへど定かならず。

(ハ) 井泉

(ニ) 前兆

(ホ) 其他 今回の大海嘯の前日即ち 3 月 2 日は終日鬱陶しく空氣淀み一種の重壓を感じる如く頭痛を訴ふるもの著しく何となく不安の念ありしは事實なり。是は明治 29 年の海嘯前日も亦同様の趣きなりし。

綾里尋常高等小學校

1.

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
白 濱 港	時 分	尺	時 分	不明	時 分	尺	回	回
	3 5	98	3 10	〃	3 40	30	3	5
	3 10	40	3 20	〃	3 50	10	3	5

2. 生死の場合ですから確に之を眺めたる者なき筈です兎に角波に追ひ立てられ生命からがら避難した者の話によれば下からモクモクと盛り上る様に上部に白浪が立つている様に眺めたる事は何人も一致してゐる様です。津浪は第1回目は小で第2回目は大なる様に話さるゝも第1回目は確かに大なりと信じます。家屋其他障害物を破壊のため余程の勢力をそがれたる爲第2回目は水勢が強大なる様に感じたものと思はれます。随つて第2回目は最も遠方まで水力おとろへずに行進せり。これを第2回目の勢力が大なりと誤りたるに非ざるか。

第3回目は時間も遅れ勢力も全く減退して大潮の時の如くヂワヂワと來ました。流失物はそのまにまに上つたり下つたりして翌日午前 10 時頃までは海面一體に材木破片でうづまつてゐました。

同一村内に漂着してあまり遠くに流れず。(報告綾里村の項參照)

4. (イ) 音 a. 午前 2 時半の大強震後 20 分程経て微音があつた。
 b. 津浪の來る 10 分程前である。
 c. 遠雷の響の様にドドンと全くの微音で感じた人が少い。
 d. 東方。
 e. 底力があつたが弱。
- (ロ) 光 光り物等見た人がない。
- (ハ) 井泉 津浪襲來の直前に於て井戸の水が涸れたことに氣附いた者があるから或は一帯に涸れたかも知れない。
 砂子濱と云ふ部落の涌泉がやはり直前に全く止り襲來後 10 分程にて再び湧出すること常の如し。
- (ニ) 前兆 浮游魚群は津浪襲來數日前より全く其姿を隠したるは其の前兆と思意される。
- (ホ) 其他

大船渡町 大船渡尋常高等小學校

1.

部落名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
下船渡	時分 3 5	尺 2~5	時分 3 10	尺 5~10	時分 3 20	尺 6	回 1	回 2
平	3 10	4	3 13	6	3 25	5	2	4
永井澤	3 13	4	3 15	5	3 30	2	3	4
笹崎	3 15	5	3 17	6	3 35	4	2	1
川原田中	3 17	3	3 20	6	3 40	2	1	2
欠ノ下	3 20	4	3 24	7	3 44	4	3	5
赤澤	3 21	6	3 25	8	3 45	4	2	3

2. 下船渡は灣口にある。下船渡の方から見たのには珊瑚島の島の方向に浪が見えたさうです。その時は非常に大きな波がモクモクと押し寄せてその浪の色は泥の様な眞黒な色の浪になつて押し寄せて来て、海岸に来て波が退けるまでの色は銀色に眞白くなつてはねかへつて行つたさうです。満ちて来る時は退けた水が一度にモクモクと恐ろしい様に満ちて来たさうです。浪が打ちつけて来る時は自動車でも走る様にガウガウと音を立て、打ちつけて来たさうです。波が崩れたり逆巻いたりしないで下からモクモクと盛り上げる様に勢よく押し寄せて来ました。第2回目に来た浪が大損害を與へた様です。川を逆上る海水もモクモクと盛り上げる様だつたといひます。

3. 下船渡 流失物は對岸赤崎村蛸浦に漂着したもの約7割。その他赤崎村小細浦に漂着す。

平 赤崎村蛸浦尾崎神社下の邊に漂着す。

欠ノ下 赤崎村字永濱に漂着す。

赤澤 赤澤部落内に漂着物が有つた。

永井澤 赤崎村字清水に漂着す。

4. (イ) 音 a. 高い音が聞えました。

b. 10分位前に聞えました。

c. ドーンと大砲でも撃つた様な音でした。

d. 釜石沖の方向にきこえた。

e. 強音で有つた。

(ロ) 光 a. 津浪と一緒に見えた。

b. 水の上つたのと一緒に銀色に光つて上下動しながら来た。

- e. 銀色と黒色のまじり.
- d.
- e. 水の上つて来た部分が光つて見えたさうだ.
- f. 濱邊より丘に約 40 米高さ 7 米位の所で午前 3 時頃.

(ハ) 井泉 永井澤部落に 2 ケ所あり.

潮の満ちてゐても井戸水が干つてポンプをついても水が出て來なかつたと、井戸水が濁つた.

欠の下部落では「茶屋」といふ家の井戸が濁つて水も減つたと、平部落には数日前後に亘つて井戸水が干たり増したりした井戸が數ヶ所あつた.

井戸の大半が濁つたらしい(町内の)

山に近い邊は濁らない.

(ニ) 前兆 前年度より海潮及海壓等が平年と異つてゐた. 海藻等や海岸の貝類等が死んだりした. 水の温度や潮流の平年の流れの経路と異つてゐた.

不期節の不規則的に魚等がとれたりした.(大漁的に)

(ホ) 其他 地震後約 30 分位にして津浪が來た. 普通の波の來方とは違ふ様です.

小友村 小友尋常高等小學校

1.

部 落 名	第 1 回目 の 津 浪		第 2 回目 の 津 浪		第 3 回目 の 津 浪		津 浪 の 總 回 數	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
	時 分	尺	時 分	尺	時 分	尺	回	回
只 出	15	10	5	13	5	13	3	數回
瀬 澤	25	10	5	20	3	15	3	4~5
矢 之 浦	20	7	6~7	15	3~4	8	3	4
雨 替	40	7	15	7.5	12~13	7.3	3	4
三 日 市	20~30	7	14~15	8	14~15	8	3	4

第 1 回浪の時間はドンと音がしてからのです. 第 2 回浪第 3 回はその直前の浪との時間差です.

地震で時計の針の止つたのは 2 時半でした. 地震がやんでから、音の聞えたのは 20 分とも言ひ 30 分とも言ひます. 各部落で聞いたまゝを記入致しまし

た、時間に違ひあることは御承知お願ひ致します。5~10分の處は確實の時間が不明なのでやむを得ません悪しからず。

2. 只出部落は浪は崩れて押し寄せて來ました。他の部落はデワデワと音を立て、來た様です。
3. 只出 只出部落の裏泉田に打ち寄せられました。
 獺澤 } 一部はそのまま打ち上げられ他の一部は引浪に沖に流出しました。
 矢ノ浦 }
 兩替 } 多くは裏の田畑に流れ出しました。
 三日市 }
4. (イ) 音
 - a. 聞えました。
 - b. 10分位前。
 - c. ドンといふ音でした何だか「ハツパ」の様な音でした。
 - d. よくわかりませんが東南の方向太平洋の方でした。
 - e. ハツパの強さでした。
4. (ロ) 光
 - (ハ) 井泉 有りません。
 - (ニ) 前兆 有りません。
 - (ホ) 其他 何事も気がつきませんでした。

米崎村 米崎尋常高等小學校

部落名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
沼田	時分 3 0	尺 約 10	時分 3 15	尺 約 8	時分 3 20	尺 約 6	回 3	回 約 6
脇ノ澤	3 0	// 5	3 15	// 5	3 20	// 4	3	// 6位
勝木田	3 10	// 15	3 25	// 10	3 35	// 8	3	// 8位

2. 勝木田に押し寄せし津浪。各回皆同じ様にモクモクと盛り上る様に來ました。沼田、脇ノ澤方面の波は目撃せし者なし。
3. 沼田部落 沼田部落の海岸線は家屋の在る處より高く爲に所謂引浪無く(中央)、唯々濱田川の注ぐ沼の方面と古川跡の川原崎の方面に(押し寄せし浪は)分れ前者は沼を通り氣仙川(西方に在り)に入りそれから海に入る。故に其の途中に流失物が有り、後者は川原崎に行く途中に有る状態なり(報告米崎)

村の項参照).

勝木田部落 此の部落の流失物は山手の方に打上げられそのままとなり居る状態なり.

脇ノ澤部落 此の部落は浸水家屋のみにて流失物なき状態なり.

4. (イ) 音 a. 聞えた.
 b. 3分位前.
 c. ゴーと聞ゆ.
 d. 沖の方より聞ゆ.
 e. 高く.(終始同じ様に聞く)

(ロ) 光

(ハ) 井泉 井戸は異状を認めず.

(ニ) 前兆 なし.

(ホ) 其他.

高田町 高田尋常小學校

1.

部 落 名	第 1 回目 の 津 浪		第 2 回目 の 津 浪		第 3 回目 の 津 浪		津 浪 の 總 回 數	
	襲 來 時 刻	浪 の 高 さ	襲 來 時 刻	浪 の 高 さ	襲 來 時 刻	浪 の 高 さ	大	小
高 田 松 原	時 分 3 15	尺 10	時 分 3 22	尺 16	時 分 3 37	尺 7	回 6	回 數 多

2. ジワジワとよせて來ました.
 トタン屋根に小石の數多當る如き音がして押よせて來ました.
 各回とも同様.
3. 松原沼→松原背面より氣仙町寄の方面.
4. (イ) 音 a. きこえました.
 b. 約 15 分.
 c. 自動車のエンジンのひびきの大なる如き音.
 d. 海の方.
 e. 不明.
- (ロ) 光
- (ハ) 井泉 當校にては實見者なし.
- (ニ) 前兆 前日野球試合を豫定しありしも當校職員全部眠氣を催し身體倦怠

を覺え中止せり。然れども津浪を豫想せるものにあらず。

(ホ) 其他

宮城縣之部

本吉郡

大島村 大島尋常小學校

1.

部落名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
廻館	時分 3	尺 25	時分 3 3	尺 25	時分 3 15	尺 15	回 3	回 數十
長崎	3	30	3 3	30	3 15	27	3	// //
浦ノ濱	3 30	3	3 50	5	4	2	3	// //

2. 浪の押寄せ方は本島の東側と西側とは稍其の模様を異にしてゐます。

東側(太平洋側) 一旦海水がザーッと沖の方まで引いて間もなくドツト逆巻いて打付けて來ました。浪は2回目, 3回目と回を経るに随つてゆるやかになつて押寄せてきました。

西側(氣仙沼灣) 灣の入口ではかなり大きな波が入つて來ましたが次第に浪の高さが低くなつて潮の満ちて來る様に一然し勢強くゴーンと云ふ異様な音を立て、一押寄せました。

3. 沖の方へ引かれました。

4. (イ) 音
- 聞えました。
 - 20分位前。
 - 大砲のやうな音(ドーン)
 - 北東の沖。
 - 強。

- (ロ) 光
- 見えました。
 - 色々。
 - 青光り。
 - 色々。
 - 音の方向。
 - 音と同時刻。

- (ニ) 井泉 井戸水の濁つた所がありました。
本島の中央より見て東北の位置並に南方。
變化は雨上りの水のやうでした。
- (ホ) 前兆 津浪の 2, 3 日前. 毎晩7, 8 時頃遠くで大砲をうつた様な音がしました然し附近に鐵道工事石灰岩爆破等の工事があつたので津浪の前兆とは思ひませんでした。
- (ヘ) 其他 津浪のあつた翌朝の海は實に静かで油を流したやうで物恐ろしい程でした。

鹿折村 鹿折尋常小學校浦島分教場

1.

部 落 名	第 1 回目 の 津 浪		第 2 回目 の 津 浪		第 3 回目 の 津 浪		津 浪 の 總 回 數	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
鶴ヶ浦	時 分 2 40	尺 10	時 分 3	尺 12~13	時 分 3 20	尺 7~8	回 3	回 + 數
梶ヶ浦	2 40	7~8	3	10	3 20	8~9	3	〃 〃
小々汐	2 50	7~8	3 10	10	3 30	8	3	〃 〃
大 浦	2 50	6	3 10	9	3 30	7	3	〃 〃

2. 大地震後南方遠く何か音がした時、海岸に出て見たら、今まで岸に一杯潮が寄せてゐたのが、すつと遠くまで潮が干つてゐたので津浪が来るのぢやないかとの豫感を持つた人あり。最初はどつと押寄て來たが、2 回目からは、波が逆巻き、崩れ乍ら盛上る様に押して來た。これは各部落共大體同様なり。只鶴ヶ浦は灣が深く入込んでゐるので、先の津浪がまだ引かぬうちに、後からまた津浪が押してくるので、灣内は他の部落よりも比較的水準が高かつた。それで、その灣奥にある家が 1 軒流失、家族 4 名死亡した。
4. (イ) 音 a. 遠くに當つて淋しい物凄しい音がきこえた。
b. 約 20 分。
c. 何か爆破した如き音。
d. 南の方。
e. 底にこもつた音で、強く、遠くにきこえた。
- (ロ) 光 a. 見えた。
b. 青く、明るく。
c. 青し。

- d. マグネシウムを燃やした時の様だつた。
 e. 南方
 f. 部落の海岸、音の起ると同時位。

氣仙沼町 氣仙沼中學校

生徒の回答を集めた由である(2人の答案を集めた爲互に重複してゐる處がある)。

1.

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
	時 分	尺	時 分	尺	時 分	尺	回	回
名 足	3	20						
尾 崎	3	4	3 10	4.5	3 25	5	4	7
大 谷	3	15	3 10	17	不明	二回より減少	3	多数
大 島	3	8	3 10	9	3 25	同上	3	同上
唐桑村只越	3	15	3 03	20	3 06	12		
同村小鯖	2 50	16	2 53	20	2 56	13		
大谷村平磯 字前濱	3 05		3 08		3 12			
唐桑村字宿	2 40	8	3 00	5	4 00	4		
松岩村尾崎	3 30	2	3 40	3.5	3 50	2.5		
唐桑村東舞根	3 30	7	4 00	8	4 10	5		
大島村字崎濱	2 30	20	2 33	30	2 36	15		

2. 大谷村大谷 浪の主力は2番目であつた。津浪の來る直前に潮が3回とも澤山引いた。夫は急にザアザアと川鳴の様に音をたて、引いた。
 唐桑村只越 津浪の押寄せる前、満潮より2丈5尺も水がへり、400米も引いた。引くときはザワザワと音を立て、引いて行つた。5分位経つと凄じい音と共に下からモクモクと盛上る様に來た。引くときはガラガラと金棒を引すり廻す様に各回共同じ様であつた。
 唐桑村小鯖 第1回では家は緩んただけで流れず。第2回で流動す。
 同 鯖立 第1回目は潮の充ちる様にジワジワと來た。第2回目は強く襲來した。第3回目は幾らか先きより弱く來た。
 松岩村尾崎 白く盛上つて堤防の様な形をして押寄せて來た。押寄せて來る前に潮が引いた、各回とも高低はあれ共同じ様子で押寄せた。
 大島、小田濱 潮の満ちてくる様にヂワヂワとしかも下からモクモクと盛上る様に堤防形をなして來た。
 唐桑村宿 最初急激な磯干となり間もなく堤防形をなして押寄す。其の波が入

江の奥深く進むに従ひ浪高大となる。

大谷 上と同様。

津浪來襲直前普通干潮の数倍も干潮せりと見ゆる内に大浪となり押寄せ來る。海水は次第にモクモクと盛上る様に増水して陸地へ上りたり、2回3回目も同様なり。

大谷村前濱の狀況 去る明治 29 年の時の浪は押浪も引浪も實に強かりしも今回ののは押浪強きも之に比して引浪は幾分弱し但し之は浸水田畑等の土の流れ様を以て推測せるなり。

唐桑村字宿

1. 潮の満ちて來る様にジワジワと來た。 2. 浪は崩れて來た。 3. 各回共に同じ様な來方。

唐桑村東舞根

一時満潮より 10 分以上も水が引いて海底はブジブジと言ふ音が聞えてゐる内に(約 30 分位)海水は少し逆巻いて下からジワジワと音を立てモクモクと盛上つて來た。各回共同様な來方。

大島村崎濱 潮が急に常に引けるよりも 3 倍以上も大きく引けて 20 分位間があり沖の方からゴーゴーとなり乍ら浪が押寄せ海岸に來るとジワジワと下から盛上る様に來た。

3. 馬場→東方沖へ

階上→松岩へ

唐桑村只越 流失した家屋、船、家財等は風のため皆沖合に流れて漂着場所不明。當部落に漂着物なし。

大谷村前濱 引浪弱きためと當夜は南の微風ありたるため流失物は沖合を流れず日出迄には大概岸に漂着せり。漂着物は何れも幾分北の方に漂着せり。同部落内に漂着せり。

大島村崎濱 同部落内に漂着。

4. (イ) 音 a. ドーンと爆發の如き音聞ゆ(襲來の 30 分位前にて地震より 5 分位後)
 b. 津浪より 30 分前と云ふもの、6~7 分前と云ふもの。
 c. ドーンと爆發の如き音、山の方でも聞えた(多分反響音?)

- d. 南東沖合の方向, 東微北.
 - e. 大砲の音を遠くきゝしが如し.
 - a. 聞えた(大谷村前濱), 聞えた(唐桑村宇宿).
 - b. 1~2分前(大谷村前濱), 20分前(唐桑村宿), 15分前(大島村)
 - c. ゴーゴーと大風の來るときの様に(大谷村前濱), 爆音(唐桑宿)
 - d. 南沖に(大谷村前濱), 西南方(唐桑村宿)
 - e. 強大(唐桑村宿)
- (ロ) 光
- a. 見えた.
 - b. 浪の上にかたまつて來た.
 - c. 青光.
 - d. ぎらぎらと押しよす.
 - e. 津浪と共に南東より.
 - f. 唐桑の石濱, 大谷海岸, 午前3時頃.
 - a. 見えぬ(大谷村前濱), 見えた(唐桑宿), 當時釜石沖にて漁中の
勢進丸實見せりと(光につきて). 渦状青光(唐桑宿)
 - b.
 - c.
 - d.
 - e. 沖の方(唐桑宿). 沖の北方石濱部落, 午前2
時30分(唐桑宿)
 - f.
- (ハ) 井泉 井戸水濁れた……大谷 津浪後1週間位續いた.
- 井戸水濁つた……尾崎 津浪前.
- 井戸水が灰色に濁つた……鹿折 津浪前1週間.
- 津浪後3~4日すぎて井水減少して濁つた淡白色に, 水の濁りと減少は同時である……大谷村大谷. 地震後即ち津浪襲來前(海水が引く前)海面鏡の如くおだやかなりき.
- 氣付かず(大谷村前濱), 氣付かず(唐桑の宿).
- 井水濁れた……2日前より3日間(唐桑村崎濱水尻澤).
- 津浪の3,4日前より海水濁れりと漁師の言(唐桑村只越).

- (ニ) 前兆 津浪来る直前に速力大に極端に海水退く各部落一般に然り。
前日午後1時頃南西沖にて雷聲1回聞ゆ、當時の空模様は風なくどんよりと曇りいや味を帯ぶ、雷聲は底鳴の様に聞えたり。(大村谷前濱)
2~3日前より潮が悪く所々に渦巻が起つた。(唐桑村崎濱)
- (ホ) 其他 津浪後鮑が多数打上げられた…歌津名足。
津浪後アサリが多く腐敗してゐた…大谷。
津浪前鯛の大漁、津浪後2ヶ月後鳥賊が例年來らざる灣内に多数押寄せたり。
空は一带にどんよりと曇り無風鬱々せる日に1つ雷聲の時は必ず天變あること多しと聞く。津浪後2~3日間は潮の干満に不拘小さな津浪と思はれる様なのが4~5回あつた。津浪の来る前の地震で外へ出たとき空が氣味悪い程澄んで星が異様に輝き(青白色)たり。

氣仙沼町九條尋常小學校九條分教場

氣仙沼町は、氣仙沼灣中なる大嶋(大嶋村とて1村をなす)が自然の一大防波堤をなし、地形上に恵まれた地理的環境にある爲過般の津浪にはその慘害をまぬがれることを得た。ことに九條(地名)は氣仙沼町の郊外高台にある爲津浪襲來は3月3日の強震後數時間の後に至つて知れる者多く(町内にても然り)、爲に津浪襲來當時の模様を窺にする者なし。唯強震後15分から20分位にしてドンと大きな音を2度までも耳にせるものは多い。又音の直後に東方に赤紅白のヒラメキを認めたものは(大谷村)ある。

階上村 階上尋常小學校

1.

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
和 城 前	2 30	8	2 40	5	3 10	3	3	8
波 路 上 濱	2 33	5	2 42	4	3 13	2	〃	〃
長 磯 濱	同	5	同	4	3 15	2	〃	〃
長 知 濱	2 33	4	2 45	3	3 16	2	〃	〃
明 戸 濱	2 30	7	2 40	5	3 11	3	〃	〃

2. 1. 潮の満ちて来る様ヂワヂワと來ました然し早さは急でした。
2. モクモクと盛上る様に來ました。
3. 第1回目は折つて來たとも思はれますが、第2回目以後はモクモクと同じ様でした。

3. 大谷村大谷海岸よりの流失物は本村和城前濱に皆漂着しました。
本村のは本村同部落の畑に打上げられただけです。
浪跡を見ると大谷の海岸から廻つて來たやうでした。
4. (イ) 音 a. ゴーツと沖の方から物凄い音がしました。
b. 20分位前と思ひます。
c. 波の押寄せる音はドンドンと地響をして15分位續きました。
d. 本村のSEの沖合でした。
e. 室の中で大太鼓をうつのを10町位の所で聞くやうでした。
- (ロ) 光 a. 1回目の浪が岸を打つてはね上る時浪は光つて明かでした。
b. 光るといふよりも明るくと云いたいです。
c. 大てい海の水の微生物夜光蟲だと思ひます。
d. うす白いと申しませうか。
e. 浪を打つた海岸全體です。
f. 波路上地福寺前より明戸濱を一目に見ました。
- (ハ) 井泉 丁度私は其晩夜警番で巡回中でしたから、そんなことは聴きませんでした、注意しない爲でせうか。
- (ニ) 前兆
強震のあつた時約30分前明治29年の津浪の罹災生存者は何れも豫言しました。
昨年當りより小地震が多い様な氣もしました。
- (ホ) 其他 明戸濱は明治29年に全部落80戸を流失した所で只今は耕地として全部上方に移轉しました。其處は此度の浪の高さは7~8米も低いと思はれます。

御嶽村 馬籠尋常小學校

當學區は海岸を離る2里餘の地點にあり然も北上山脈中の盆地をなす故津浪の被害なく従つて御下問に對し明確なる回答をなす能はず。

歌津村 伊里前尋常小學校港分教場

1.

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
	時 分	尺	時 分	尺	時 分	尺	回	回
港 濱	2 58 _頃	15 _{内外}	3 0 _頃	16 _{内外}				
田 ノ 浦	〃	〃	〃	〃				
石 濱	〃	〃	〃	〃				
名 足	〃	〃	〃	〃				
馬 場	〃	〃	〃	〃				
泊 濱	〃	10	〃	10				
伊 里 前	3 頃	10	3 5 _頃	13				

(港部落以外は確實なることは申上げられません.)

2. 1. 下の方からモクモクと盛上るやうに來ました, そして近海底の砂を多數に運んで浸水区域には多いところ1尺少いところで2~3寸平均に砂を置き去りました.
2. 各部落とも殆んど同じ様な様子ですが東北に口を有する灣と南口とでは又異り東北方から押寄せて來たこと明かです. 同日早朝のラヂオでは震源地は金華山東南とありましたが其時に於ても中央氣象臺發表は誤りであることを何人も口を揃へて云ひました.
3. 同夜は丁度小雪3センチ位ありましたが押寄せて來る波が雪の消えるのでよく解りましたセキ止めてゐた水が水量の増した爲め1度に止めがくずれて流れて來るやうに壓力の加つた水がモクモクと流れて來るやうでした.
4. 各部落とも同じ様子です.
3. 各部落とも第2回の大浪により陸の浪の打上つた山手に山積されました. そして引波でさらつたもの丈け沖に流されました.
4. (イ) 音
 - a. 山手の方には良く聞えたそうです. 私は聞きません.
 - b. 約20分位前.
 - c. 遠くで大砲でも打つたやうな音とのこと.
 - d. 當地から東北方.
 - e. 先きの音は強く後のは弱かつたとのこと.
- (ロ) 光
 - a. 見た人もあるとのこと.
 - b. 震源地の方向の空がサツと青白くなつた.

- e. 青白い色.
- d.
- e. 東北方.
- f. 高臺の人は見たと、2時40分前後らしい。

(=) 前兆 地震がある3時間ばかり前に鼠が室に入つて來. それは爐の灰に穴をつくりペロリと出て室を駆け廻つた. 洋室に爐がある室で未だ入つて來たことがなかつた.

浪の襲來する5~6分前に潮がズツと引けたので不思議に思ひさわぎ出した.

志津川町 志津川尋常小學校荒砥分教場

1.

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
荒 砥	時分 3 02	尺 10	時分 3 26	尺 12	時分 4 05	尺 8	3回	5回
平 磯	3 04	7	3 28	8	4 06	7	3	5

2. 最初に潮が満ちて來る時の様に小浪がデワデワと來、それより約1間位後方に高さ7~8尺位の大波が小波に乗つて滑べる様に來ました。
各部落、各回共同様に來ました。
3. 當學區内に流失家屋1戸もありません。
4. (イ) 音 a. 聞えた。
b. 約35~36分位前。
c. ゴーゴーと言ふ音。
d. 南々東沖の方向。
e. 餘り強いとは言はれない。
- (ロ) 光 a. 見えた。
b. 青光。
c. 青色。
d. .
e. 南南東沖の方向。
f. 志津川町平磯海岸. 午前2時50分頃。
- (ハ) 井泉 志津川町字荒砥小字權現海岸にある井戸に於ける水量は少量だけ涸れたと言ふて居ります。

桃生郡

十五濱村 船越尋常小學校

1.

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
船 越	時 分 3 30	尺 8位	時 分 3 35	尺 12	時 分 3 40	尺 20位	同 3	同 10數回
荒 屋 敷	3 40	29					1	10數回

荒屋敷部落は 28 戸中 5 戸を残し 23 戸は塵一片も残さず流失し死者 60 名を出した。部落民は誰に聞いても津浪が何回襲來せるか不明。熟睡中に只 1 度で宛も山崩にあつたやうに突然家屋が破壊倒壊され其の家屋と共に人體がゴツチヤになつて流されたらしい。

2. 汀より 10 間の地所に住む實際目撃せる者の實話其の儘を下に記す（船越部落 武内榮左衛門(48歳)の實話）。

午前 3 時の強震に起床し焼火をして就褥せず居りしに戶外にて誰かの聲にて津浪だといふ 2~3 人の聲を聞きし爲戶外に出で汀に立ちて沖の方を見た。然るに暗夜なりしも音もなく沖の方にある島(小島)を見れば平素より海面が非常に高く見えたあの黒く高く見えるのが何だらうかと考へてる中(記者の推定は 1 分間か 30 秒位の時間)に自分の立てる汀の水が沖に向つてガラガラと引いた(ガラガラは礫砂の音)其の引方が生れて見たことの無い程沖に引いて行つた汀の小舟が引かれて行き其の高さが汀の家屋の屋根よりも高い位に沖の方に見えたので之は津浪だと感じ飛ぶが如くに家内に入り家族を起した時は既に浪が戸を破り屋内に入り家族が膝切り水に入りて逃げた裏山に登つたらガラガラと家屋が壊れて沖に引かれ行く音が實に凄い有様であつた其後約 5~6 分置き位に右の様なすさまじい音がした。

3. 荒屋敷の物 大須海岸より金華山方面の沖合。
船越の物 何處へも行かず灣内に居止つた。
4. (イ) 音 午前 3 時の地震後約 10 分、ザア-と云ふ風の吹く様な音が聞えた。其後約 10 分又前同様音が聞えた。其後津浪の襲來より 5~6 分前大砲の音の様なのが唯 1 度ドツと聞えた。其の方向は東北の方。
- (ロ) 光 光を見た者なし。

- (ハ) 井泉 以上の様なことなし。
 (=) 前兆 なし

船越尋常小學校本須分教場

當部落にては地震後再び寝につき津浪襲來後 30~40 分後に津浪のありたるを知れる有様にて調査事項に關しては記入致し兼ねます。

但し大須にて小舟數艘流失せるも他部落よりの漂着物無し。

羽坂尋常小學校

部 落 名	第 1 回目 の 津 浪		第 2 回目 の 津 浪		第 3 回目 の 津 浪		津 浪 の 總 回 數	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
十五濱羽坂	時 分 3 30	尺 13	時 分 3 37	尺 13	時 分 3 45	尺 12	3 回	3 回

2. 津浪が押寄せて來る前に潮がずつと引いてそれからモクモクと盛上る様に來ました。
 岩の附近は渦を卷いて丁度繪本にある鳴戸海峡の潮の様でありました。
 斯様にして幾回も満ちたり干ひたりして浪が寄せなくなつても岩の近くは渦卷をして居ました。
3. 羽坂にて船が岸から離れて灣の中流から沖の方に漂ふて居りました。
4. (イ) 音 a. 地震後大砲の様な音がしました。
 b. 津浪より約 15 分位前でした。
 c. 大砲の様な音でした。
 d. 南方の沖合でした。
 e. 野砲の空砲位でした。

(=) 前兆 空模様が常と變つてどんよりし日入, 月入が至つてぼんやりして居ました又海水の流が南の沖に非常に早くありました。

赤井村 赤井尋常小學校南赤井分教場

4. (イ) 音 a. 大砲の如き音を聞きたり。
 d. 東方。
 e. 普通演習の時より小なる大砲の音位。
- (ハ) 井泉 上記の如き變化を認めず。

鷹來村 鷹來尋常小學校。

當地は1部落海岸に面して居候へども過般の地震に依る津浪の地とは全く正反對の地勢に相成候付何等の支障も無之候

唯 30 分餘前に大爆音致しそれより強震ありしのみにて海岸方面は全く平常と大差無之候間右御報告に替へ申上候

牡鹿郡

女川町 尾浦尋常高等小學校御前分教場

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
御 前 濱	3 分	6 分	3 分	7 尺	3 分	5 尺	3 回	20 回
指 ケ 濱	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

- 3 時頃 40 米も潮が退いた。すると潮の満ちて來る様にヂワヂワと津浪が來た。其の後 15 分位の間隔で 3 回來た。
- 御前濱 女川町出島。
指ヶ濱 同
- (ハ) 井泉 津浪の 1 週間も前から井戸水が濁り井戸水は半分位に減少した。
(ニ) 前兆 附近一帯は鰯の豐漁なりしと、井戸水の減じたことである。

江島尋常小學校

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
	2 分	20 尺	3 分	10 尺	3 分	5 尺	回	回

備考 津浪の回数は 3 回或は 4 回と言ふ人あり。

- 潮の満つるが如くヂワヂワと來る。尙滿潮と異なる所を擧げればそのヂワヂワと來る中に畠のウネの如き小さき波が幾つも漂ふて來たと云ふ(私は見ません)。而してそれが引く時は急激だつたと言ふ。各回共同じに來たれり。
- (イ) 音
 - 聞えた。
 - 20~30 分前。
 - 大砲の如き音す。
 - 東東南の方向。

- e. ボンとボンヤリした音.
- (ロ) 光 a. 見えた.
b. 廣く.
c. 赤く.
d. ボーツと大きく.
e. 東東南の方向.
f. 東海岸より午前 2 時 30 分頃.
- (ハ) 井泉 津浪の数日後井戸濁る.
- (ニ) 前兆 前日, 午後 6 時頃, 遠くで大砲の打つ如き音聞ゆと言ふ.
- (ホ) 其他 墓石の位置變る.

石巻市 湊尋常小學校

調査無之候.

門脇尋常小學校釜分教場

當部落一帯には津浪襲來無之候.

住吉尋常小學校

該當事實なし.

渡波町 渡波尋常小學校

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
長濱海岸	時 分 4 0	尺 4~5	時 分 4 35	尺 5	時 分 4 55	尺 5~7	回 5	回 7
萬石浦沿岸	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

2. 潮の満ちて來る様に但し速度が非常に大でありました.
當地は萬石浦に沿ふ爲に水は全部浦の中心に向けて吸ひ込まれ被害は此爲に殆どなかつたのであります.
各部落とも各回同様でありました.
3. なし.
4. (イ) 音 聞えません.
(ロ) 光 見えません.
(ハ) 井泉 何もありません.

(ニ) 前兆 なし.

(ホ) 其他 なし.

荻濱村 竹濱尋常小學校

1. 荻濱村小積 午前 8 時頃より 2 丈高地に上る 1 回丈
 同村福濱浦 同 1 丈位 同
 同村牧濱 同 5 尺位 同
2. 私どもの方は人畜に變りなく不明ですが人に聞いた事を知る丈申上ます。
 谷川鮫浦の方は水は餘りに急に來たのでありません、爆音の後 30~40 分後にしてザアザアと共に波音あり、それきり死んだ人は數々あります。
 水は靜に來て上るだけ上り、引く時は急轉直下激烈にして家も何も皆さらはれたのです。各部落共全部同じでない様でした。
 桃生郡十五濱村では來る時は急にモクモクと來たさうでした。先方で委細尋ねて下さい。
 岩手縣の宮古附近では爆音と共に赤い玉の如きものが沖より浪と共に陸の方に押寄せて來たさうです。
4. (イ) 音 a. 聞えました。
 b. 30 分前に。
 c. ハツパの如き音でした。
 d. 東の方向寢て居たので明瞭ではありません。
 e. ハツパの様でした。
- (ロ) 光 これは私どもはかげ濱故不明ですが、見た人に聞くと東の方に津浪の 3~4 日前より毎晩 8 時前後に赤黄色の電光の如きものを見ました。
 ピカピカともならず光つて居つたのです別に模様もないのです。
 牡鹿郡荻濱狐崎午後 8 時前後東方に又桃生郡二俣村倉迫にて之は 3 月 3 日午前 2 時 40 分頃地震最中に南東の空に同様の光りものがあつたさうです。見た人に聞きました。
- (ハ) 井泉 津浪の 3~4 日前から牡鹿郡荻濱村牧濱鈴木トクヨの井戸濁り飲用出來ず。津浪後は急に今まで白くはまぐりでしたが、赤味泥水になりました。約 5~6 日飲用しません。
- (ニ) 前兆 井戸水を見たり光ものを見たり聞いたりした時にも誰 1 人として

之は津浪の前兆と思つたものではありません。只寝中に爆音を聞いて始めて津浪たることを知つただけです。

(ホ) 其他 私の方は損害些少人畜死傷無く、委細申上兼ますが牡鹿郡大原村谷川の慘状見るに堪えません。

荻濱村 小竹尋常小學校

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
	時分	尺	時分	尺	時分	尺	回	回
小 竹 濱	2 40	4	3 40	6			2	1

2. 潮の満ちて来る様にデワデワ來ました。各回共同じ様な來方でした。但し其の度に部落西南灣口(深水普通干潮 3~4 尺, 口廣約 180 間位)で浪が崩れてザワザワ音がしました。

4. (イ) 音 a. 津浪前爆音が聞えました。
 b. 津浪より 30 分位前に音が聞えました。
 c. 石油タンク爆發の様な音がしました。
 d. 罹災地釜石方面に聞えました。
 e. 石油貯藏庫爆發の程度。

(ロ) 以下變つた事ありません。

大原村 大原尋常小學校

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
	時分	尺	時分	尺	時分	尺	回	回
大 原	2 30	3	2 40	3	2 50	3	3	6
給 分	"	3	2 40	3	2 50	3	3	6
小 淵	"	4	2 40	6	2 50	6	3	6
小 網 倉	"	4	2 40	6	2 50	6	3	6
谷 川	2 20	7	2 30	10	2 40	10	3	10
大 谷 川	"	7	2 30	10	2 40	10	3	10
鮫 浦	"	7	2 30	10	2 40	10	3	10

2. 大 原 }
 給 分 } デワデワ來ました。

小 淵 }
 小網倉 } モクモクと盛上る様に來ました。
 谷 川 }
 大谷川 } 水鐵砲の様に打付けて來ました、浪は崩れ逆卷いて來ました。
 鮫 浦 }
 大3回とも非常な勢で來ました。

3. 大原村 大谷川.
 谷 川.
 鮫 浦.
 小網倉.
 泊.

- (イ) 音 a. 銃のやうな音が2回聞えました。
 b. 20分位。
 c. ドンといふ音がしました。
 d. 東の方です。
 e. 可なり強くありました。

以下 なし。

宮城郡

七ヶ濱村 亦樂尋常高等小學校

當村は津浪の影響少なく、當日の浪の高さも普通の時化位のものにて満潮面より4尺位の高さならん。

浸水家屋流失物等一切なし。

海底が金華山、福島縣鹽屋岬を劃する線内の海棚になつてゐる爲めか海嘯の影響意外に僅少なりき。

光りものを見たといふも、どの程度まで眞なりや不明なるも申出でありしまゝ記入す。

2. モクモクと渦卷のやうに來たとの答が多い。
 各回とも同様らしい。
 3. 流失物なし。
 4. (イ) 音 a. 2回。

- b. 不明.
 c. 大砲のやうな音ともあり..ものゝ崩れるやうな強い音ともあり.
 d. 不明.
 e. 鹽釜で打ち上げる花火位とあり, 鹽釜港との距離直徑 2 杆位.
 (ロ) 光 a. 見ないもの殆んど全部, 僅かに數名見たとの事, ピカツと光つた.
 b. 稻妻の光のやうに.
 o. 青光してゐた.
 d. }
 e. } 不明.
 f. }

(ハ) 井泉 津浪前から濁れた家 1 軒, 海岸から 30 米許の處にあり. 津浪後
 2~3 日で復舊.

津浪當日濁れた家 2 軒.

津浪當日濁つた家 1 軒.

(ニ) 前兆 なし.

(ホ) 其他 なし.

セケ濱村 松ヶ濱尋常小學校

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
	時 分	尺	時 分	尺	時 分	尺	回	回
莒 蒲 田	3	10						

1. (1) 押寄せて來る模様を目撃したる者なし.
 (2) 音がしてから, 後防波堤を越えて民家の庭に海水の浸入する有様を知つて
 一時は避難せんとしたれども危険なきを知り避難せず.
 (3) 同一部落にても東南に面せる海岸區は浸水 10 尺に達せず.
 4. (イ) 音 a. 大砲の如き音を聞く.
 b. 約 30 分前.
 c. 大砲の遠音の如し.
 d. 東北方の海上.

高砂村 高砂尋常高等小學校

當地は津浪の襲來無之 1. 2. 3. は御答へ出来ません.

- 1.
 - 2.
 - 3.
 4. (イ) 音
 - a. 音が聞えました.
 - b. 最強地震の後微動稍ある折.
 - c. 大砲の如き音を聞きました.
 - d. 東方.
 - e. 6~7 里位にして大砲の音を聞く程の強さ.
- (ロ) 光 當地には無し.
- (ハ) 井泉 變化なし.
- (ニ) 前兆 なし.
- (ホ) 其他 なし.

仙臺市 南小泉尋常小學校

該當事實なし.

名取郡

六郷村 六郷尋常高等小學校

1.

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
六郷村藤塚	時 分 3	尺 2	時 分 3 5	尺 1	時 分 3 10	尺 1.5	回	回 10

2. (1) ウネウネと高い浪になつて普通の浪よりも早く押寄せて來た.
 - (2) 各回共同じ様な寄せ方であつた.
 - (3) 水の流れが急なので 5~6 尺の深い所でも濁つて濁流となつた.
 - (4) 川の中運河に置いた船が急流のため 5~6 艘流れた, 運河なるが故に流れた船には何等の被害がなかつた.
3. 浸水家屋なし.
 4. 井戸に變化なし.

大曲濱 表濱分教場

1. なし.
2. なし.

3. なし.
4. (イ) 音 a. 聞えました.
 b. 地震後 10 分位の時.
 c. 雷か爆音のやうな音.
 d. 東南の方角.
 e. 演習中の大砲位の音.
- (ロ) 光 a. 見えました.
 b. 稲光りのやうに. 火柱のやうに.
 c. 幾分青味がありました.
 d. いなづまの様に, しかし光はいなづまよりは弱い.
 e. 北の方の空中.
 f. 場所一定せず, 地震後 15 分位の時.
- (ハ) 井泉 変化はない.
- (ニ) 前兆 漁師の話では引潮が非常に大であること, 魚類が多く岸によつてくる事.

巨理郡

吉田村 長瀧尋常小學校

1.

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
吉 田 濱	時 分 午 3 頃	尺 5					回	回
大 知 濱	〃	3						
長 瀧 濱	〃	3						

2. 普通の浪が一時に押寄せて來た様に思はれます.
3. 該當なし.
4. (イ) 音 a. 雷のやうな音がきこえた.
 b. 2 分位前と思はる.
 c. 遠雷の音.
 d. 東方といふあり, 北方といふあり, 北西方といふあり.
 e. 今までかつてきいた事がない程強かつた.
- (ロ) 光 a. 東方に上方にボーツと見えて間もなくきえた.

- b. うす光上方にきえて行つた.
- c. 普通の光.
- d.
- e. 東方海上と思はる.
- f. 地震に驚き家外に飛出た場合、午前 2 時 50 分.

(ハ) 井泉 津浪の前には別状を認めず.

津浪後井戸水がやゝ濁る.

井戸の位置は海岸線より約 1 里の西方阿武隈山脈に近し.

(ニ) 前兆 なし.

(ホ) 其他 なし.

吉田尋常高等小學校

該當事實なし.

山下村 第二尋常小學校

部 落 名	第 1 回目の津浪		第 2 回目の津浪		第 3 回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
花 釜 濱	時 分 1 30	尺 5					回 1	
笠 野 濱	〃	〃						

1.

(1)	津浪と申す程のものにあらず、場所は砂濱なれば海水も一時に盛り上げる程度にあらず、浪が幾分高く潮の満ちて來る様に押寄せ漁船も一時 2~3 町陸方に押上げられしものにて短時の模様なり。引下がる時も急激の如く、押上げたものは其儘同場所に留まるもの多く海藻其他の漂着物にて事實を想像せり。
(2)	年 1 回位は 210 日前後よく津浪に浸されることありて海水は防波堤を越すことあり。數日來の嵐の場合は殊に注意せり。
2. 流失物なし。
漂着物なし。
3. (イ) 音
 - a. 地震後約 15 分後地雷の如き鳴動を感ず。
 - b. 津浪と知りたるは翌日河水海水の入りたるにより津浪と知る。
 - c. 遠方雷鳴の様でした。
 - d. 東南方海底の様でした。

- c. 稍緩慢.
- (ロ) 光 a. 東方に見えたる事を聞く.
 b. 青白色に明るさを感じた.
 c. 青白色.
 d. 稍長時間に渡りしこと.
 e. 海上なるも空明かなりと.
 f. 亘理郡山下村笠野.
- (ハ) 井泉 津浪の1時間前井戸水減少せることを認めたる家庭あり、海邊に屬する井戸なり.
- (ニ) 前兆 なし.
- (ホ) 其他 津浪のある前に一時海水の干潮になる事あり今回は夜中なる爲め目撃せる者なきを遺憾とす井水の下水せる事を目撃せるものありたり

坂元村 坂元尋常小學校

1.

部 落 名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
磯	4 00 ^分	6 ^尺	4 20 ^分	9 ^尺	5 30 ^分	4 ^尺	同	同
中 濱	〃	5	〃	8	〃	3	2	3

2. (1) 津浪は黒山の如く押寄せて來ました.
 (2) 潮の満ちて來るやうに來ました.
 (3) 浪は逆巻いて來ました.
 (4) 各部落とも同じ模様でした.
 (5) 津浪は各回共同じ來方でした.
3. 磯濱 } 漂着物なし.
 中濱 }
4. (イ) 音 a. 聞えた.
 b. 2 分位.
 c. ドンドンと太鼓の様な音.
 d. 北東.
 e. 可なり弱かつた.

- (ロ) 光 見えなかつたが浪が光つた。
- (ハ) 井泉
- (ニ) 前兆
- (ホ) 其他

坂元尋常小學校眞庭分教場

本分教場は坂元村の山手に在つて去日の地震による津浪について何等被害無之御調査要項に對して回答致兼ねる次第なり。

福島縣之部

相馬郡

福田村 福田尋常高等小學校

1. 部落名	第1回目の津浪		第2回目の津浪		第3回目の津浪		津浪の總回数	
	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	襲來時刻	浪の高さ	大	小
テチ 埜 濱	時 分 3 頃	尺 8	時 分	尺	時 分	尺	回	回

2. 津浪の押寄せた状況は夜明けて始めて知つたので海岸の砂丘に打付けた浪の跡によつて大體の高さが分つたのである。回数は2回位と思はる。
3. なし。
4. (イ) 音
 - a. 海の音が常よりも大きく底唸りがするやうに聞えました。
 - b. 不明。
 - c. 音は底から盛り返すやうな恐ろしい音であつた。
 - d. 沖の方に。
 - e. 普通の音ではなく稀に聞く強さであつた。
- (ロ) 光
 - a. よく分らない。
 - b. 不明。
 - c. 不明。
 - d. 不明。
 - e. 不明。
 - f. 不明。
- (ハ) 井泉 異状なし。
- (ニ) 前兆 なし。

(ホ) 其他 なし。

飯豊村 飯豊尋常高等小學校

3月3日の津浪に關し全校700の兒童に就き家庭方面へも聞き當りましたが何等の情報に接しません。

眞野村 眞野尋常高等小學校

記入すべきものなし。

福浦村 福浦尋常高等小學校

記入すべきものなし。

石城郡

草野村 草野尋常小學校絹谷分教場

當分教場は海岸に遠く當時に於ける被害は更に無之候。當夜は珍らしき大地震有之地震の直前に當り松風の音の如く異様の物音がゴーツと致し忽ちミシミシと約1分間以上も續きあわてたる者は竹箆に走り、各戸戸を開けて様を見たる程度に御座候。關東大地震の際の振れ方より一層大にして、地震静まりし後は更にユリカヘシが來り候も左程強くは無之候。後寝に就き夜明け迄異狀無之候。津浪につきては更に知る者無之候。

豊間村 豊間尋常小學校

潮の満ちて來る様にデワデワと來た。

午前4時頃直ちに襲來した様子。

高さ不明なるも小さきものなり。

夜明け後も盛んに海岸に打寄せる波浪、風穩なるに比し猛烈なり。

4. (=) 前兆 地震前(10日餘に涉り)天候曇勝ちにして暗雲低迷し、何となく空梅雨の候に等しき日續きぬ。

小名濱町 小名濱尋常高等小學校

去る3月3日の地震は可成震動を感じたるも津浪と稱する程の事もなし波浪は海濱に來りしのみ人家に入りたる處なし従つて御問ひに對し御回答する程の事なし。

殊に夜間の事とて一般人は殆んど無關心の有様、唯海濱波打際迄罫の加工品を干したる當業者も氣付かざるため流失したる有様なり。